

書ニ依ル登記ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レリトス

第二百二十二條 質取債權者ハ右ノ外動産質ニ關シ第百二條ニ記載シタル如ク其債權ヲ擔保スル不動産ヲ現實ニ占有スルコトヲ要ス

第二百二十三條 不動産質ハ動産質ニ關シ第百五條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ

第二節 不動産質ノ效力

第二百二十四條 質取債權者ハ質ニ取リタル不動産ヲ財産編第百十九條乃至第百二十二條ニ規定シタル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限り質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限り動産質ニ付キ第百七條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産ヲ轉質ト爲スコトヲ得

第二百二十五條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス

質取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲ス責ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第二百二十六條 建物、宅地ノ質ニ付テハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハス其貸賃ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ超過額アルトキ又ハ債權カ無利息ナルトキハ元本ニ充當ス

田畑山林ノ質ニ付テハ當事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計算セシテ相殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルトキハ此限ニ在ラス

貸賃又ハ果實ヲ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持、管理、栽培ノ費用ヲ控除シタル純益價額ニ付キ之ヲ爲ス

第二百二十七條 質取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ常ニ己レノ爲メ負擔重キニ過クルト思慮スル收益權ヲ將來ニ向ヒテ拋棄シ無利息ニテ抵當權ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十八條 債權者ハ債務ノ皆濟ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

然レトモ質取債權者ハ債務ノ滿期前又ハ滿期後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又質取債權者ハ滿期後自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得
右ハ下ニ指示シタル別異ノ效力ヲ生ス

第二百二十九條 他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ノ場合ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ如何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先ンセラレサルトキ及ヒ先ンセラルルモ他ノ債權者カ總テノ代價ヲ取盡サスシテ殘餘アルトキハ取

得者ハ質取債權者ノ尙ホ受ク可キモノノ爲メ第百十六條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置權ニ遵フ責アリ

債務者ノ爲シタル賣却ニシテ先取特權若クハ抵當權アル債權者又ハ質取債權者ノ請求ニ因リテ増價競賣ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ

然レトモ質取債權者自ラ賣却ヲ求メタル場合ニ於テハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ス但其賣却ニ付キ明白ニ此權利ヲ留保シ且順位ノ如何ヲ問ハス他ニ先取特權又ハ抵當權アル債權者アラサルトキハ此限ニ在ラス

右二箇ノ條件アルトキハ取得者債務ノ消滅ニ至ルマテ質權ニ遵フ責アリ

第百三十條 第百六條、第百九條、第百十條及ヒ第百十三條乃至第百十五條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

第四章 先取特權

總則

第百三十一條 先取特權ハ合意ナキモ法律カ或ル債權ノ原因ニ附著セシメタル優先權ナリ但不動産質及ヒ不動産質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノトス

先取特權ハ法律ノ制限シテ定メタル原因、條件及ヒ目的ニ於ケルニ非サレハ存在セス

先取特權カ第二所持者ニ對シテ追及權ヲ付與スル場合及ヒ其權利行使ノ條件モ又法律ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十二條 先取特權ハ不動産質及ヒ不動産質ニ關シ第百五條及ヒ第百二十三條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ

第百三十三條 先取特權ノ負擔アル者カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第三者此カ爲メ債務者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先タチ此賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得但其先取特權アル債權者ハ辨濟前ニ合式ニ拂渡差押ヲ爲スコトヲ要ス

先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シ又ハ賃貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ權利ノ行使ノ爲メ債務者ニ金額又ハ有價物ヲ辨濟ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ

第百三十四條 先取特權ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第百三十五條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ本章ノ各節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先タツ但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同原因又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第三百三十六條 本法ニ定メタル先取特權ハ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ヲ妨ケス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第三百三十七條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權ハ之ヲ左ニ掲ク但下ニ定メタル制限及ヒ條件ニ從フ

第一 訟事費用

第二 葬式費用

第三 最後疾病費用

第四 雇人給料

第五 日用品供給

第一則 訟事費用ノ先取特權

第三百三十八條 訟事費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算配當スル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金錢ノ立替ヲ爲シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ屬ス

總債權者ニ有益ナラサリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第三百三十九條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒテ爲シタル葬式費用ハ先取特權アルモノトス

先取特權ハ債務者ノ擔當ニ係ル同居親族ノ葬式費用ニモ亦之ヲ適用ス

此先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上ノモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特權

第四百十條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債務者又ハ前條ニ指定シタル親族ノ死亡前ノ疾病ニ關スル醫師、藥商、看病人其他此ニ類スル費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其親族ノ疾病ニ關スル費用モ亦同シ

長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特權ハ最後ノ一个年ノ費用ニ之ヲ制限ス
右ノ費用ヲ生セシメタル疾病ノ外ナル原因ノ爲メ死亡アリタルトキト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第四百十一條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居親族ノ雇人ニ屬ス
右ノ先取特權ハ最後ノ一个年ノ給料ノミヲ擔保ス

第五則 日用品供給ノ先取特權

第四百十二條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居ノ親族及ヒ雇人ノ生活ニ必要ナル日用品ノ供給者ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ六ヶ月間ノ供給ノミヲ包含ス

第二款 一般ノ先取特權ノ效力及ヒ順位

第四百十三條 一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代價ノ配當ニ先タチ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ假ニ條件附ニテ之ニ加入スルコトヲ得但日後動産代價ノ配當加入ニ於テ辨濟ヲ得サル部分ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ加入スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百十四條 一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第三百三十八條乃至第四百二十二條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同原因ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先タチ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權ニ先タツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先タツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應シテ其總不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百十五條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セス

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第四百十六條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産質取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 不動産ノ賃貸人

第二 種子及ヒ肥料ノ供給者

第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工

民法 債權擔保編

- 第四 動産物ノ保存者
- 第五 動産物ノ賣主
- 第六 旅店主人
- 第七 舟車運送營業人
- 第八 保證金ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債權者
- 第九 右保證金ノ貸主

第一則 不動産賃貸人ノ先取特權

第四百四十七條 居宅、倉庫其他ノ建物ノ賃貸人ハ、賃借人ノ使用又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ動産物カ賃借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但賃貸人カ賃貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ賃借人ニ屬セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラサリシトキニ限ル

賃貸人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又賃借人及ヒ其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ證券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第四百四十八條 賃貸人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ辨濟ヲ擔保スルニ足ル可キ動産ヲ賃貸シタル場所ニ備フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得賃借人之ヲ爲サス且此家賃ノ前拂又ハ之ニ相當スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得

尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

賃貸場所ニ備ヘタル動産ヲ賃貸人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別ニ詐害ナキニ於テハ賃貸人ハ其擔保カ不足ト爲リタルトキ且賃借人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ賃貸人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル行爲ニ付テハ賃貸人ハ財産編第二百四十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對シテ其行爲ヲ廢罷セシムルコトヲ得右ハ總テ第三百二十三條ニ依リテ賃貸人ノ有スル權利ヲ妨ケス

第四百四十九條 賃貸借ト永賃借トヲ問ハス田畑山林ノ賃貸人ハ賃借人カ居宅並ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動物、農具其他ノ器具ニ付キ上下同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附著スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ノ上ニ先取特權ヲ行フ

第五百十條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テ賃貸人ハ賃貸場所ニ備ヘ有ル動産カ讓受人又ハ轉借人ニ屬スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及ブ

此場合ニ於テ先取特權ハ第三百二十三條ニ從ヒ讓渡又ハ轉賃ノ代價トシテ主タル賃借人ノ

受取ル可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ貸貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百一十一條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ハ土地、建物ノ借賃其他ノ負擔ニ付キ前期、當期及ヒ次期ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

此他先取特權ハ賃貸借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務、前期及ヒ當期ニ於テノ賃借人ノ過失又ハ懈怠ノ爲メ賃貸人ノ受ク可キ賠償及ヒ賃貸人カ請求スルコトヲ得ヘキ解除ニ添ヒタル損害賠償ヲ擔保ス

第五百一十二條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ爲メ賃貸借ノ解除ヲ防止シ及ヒ初ヨリ轉貸又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラズ其賃借權ヲ轉貸シ又ハ讓渡スコトヲ得但賃貸借殘期ノ爲メ賃貸人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權

第五百一十三條 所有者、用益者、賃借人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用ヒタル年ノ果實ニ付キ先取特權ヲ有ス

蠶種及ヒ蠶ノ飼養ニ供スル桑葉ヲ供給シタル者ニ付テモ亦同シ

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權

第五百一十四條 雇人ノ外其年ノ耕耘收穫ノ爲メ勞動シタル稼人ハ一个年間ノ給料ノ爲メ其收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス

又工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ先取特權ヲ有ス但其年ノ給料中

最後ノ三個月間ノ爲メノミニ限ル

第四則 動產物保存者ノ先取特權

第五百一十五條 動產物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第九十二條ニ從ヒ己レニ屬スル留置權ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス
右ノ先取特權ハ金額、有價物其他動產物ニ關スル物權又ハ人權ヲ債權者ノ爲メニ追認シ保存シ又ハ實行セシメタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動產物賣主ノ先取特權

第五百一十六條 動產物ノ賣主ハ代價辨濟ノ爲メ期限ヲ許與シタルト否トヲ問ハス其代價及ヒ利息ノ爲メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス
若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額ノ半ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存在ス

第五百一十七條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合體スルニ因リテ不動産ト爲リタルトキト雖モ猶ホ買主ノ占有ニ在リ且變形セサル間ハ存續ス但合體ノ場合ニ於テハ不動産ヲ毀損セスシテ其物ヲ分離スルヲ得ルコトヲ要ス

第五百一十八條 賣主ノ先取特權ハ財産取得編第四十七條及ヒ第八十二條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケス

第六則 旅店主人ノ先取特權

民法 債權擔保編

第五百五十九條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料、食料ノ爲メ其旅客ノ携帶シテ
尙ホ旅店ニ存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ有ス

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第六十條 舟車運送營業人ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關稅其他正當ナル附從ノ
費用ノ爲メ自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時以内ニ價務者又ハ其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル
者ニ對シ其物ヲ返還スルカ又ハ運送賃其他ノ費用ヲ辨濟スルカノ催告ヲ爲シ且其效果ヲ
生セシムル爲メ成ル可ク短キ時間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ引
渡後ト雖モ存續ス

如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得ス但第四百四十八條ニ規
定シタル如ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラス且第三百三十三條ノ適用ヲ妨ケス

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第六十一條 保證ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ過失又ハ職權ノ濫用ヨリ生スル債權
ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第六十二條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨリ害ヲ受ケタル者ニ辨濟
アリシ後第二位ニテ此保證金ニ付キ先取特權ヲ有ス但第三者カ貸付ノ當時又ハ他ノ債權

者ヨリ何等ノ故障ヲ述ヘサルモ前規則ニ從ヒテ其權利ヲ證シタルトキニ限ル

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第六十三條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競合スルトキハ優先ノ順序
ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訟事費用ハ其費用ノ有益タリシ總債權者ノ債權ニ先タツ但有益ノ限度又ハ割合
ニ從フ

第二 此他四箇ノ一般ノ先取特權ハ第三百三十七條ニ定メタル順序ヲ以テ總テノ特別ノ
先取特權ニ先タツ但特別ノ先取特權ニ屬セサル動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第六十四條 一箇ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債權競合スルトキハ其相
互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒテ之ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス
若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ最後ノ保存者ニ屬ス

第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ賃貸人、旅店主人又ハ運送營業人ノ如
ク默示ノ動産質ニ因リテ物ヲ質ニ取リタル債權者ニ屬ス

第三ノ順位ハ物ノ賣主ニ屬ス
然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未タ支拂アラサルコトヲ知ラサ
リシトキハ第一ノ順位ヲ得

之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未タ支拂アラサルコトヲ知リタルトキハ賣主之ニ先
タツ

收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ稼人ニ第二ノ順位ハ種子及ヒ肥料ノ供給者ニ第三
ノ順位ハ土地ノ質貸人ニ屬ス

工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付テ質貸人ニ先タツ
公吏ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ債權ノ割合ニ應シ其債
權ノ日附ニ關セス他ノ債權者ニ先タチ又保證金ヲ貸付タル債權者ニモ先タツ其保證金ヲ
貸付タル債權者ハ保證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス

第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第六十五條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ不動産ニ付キ先取特權
ヲ有ス

第一 賣買、交換其他有償ノ行爲ニ因リ又無償ナルモ負擔ヲ帶フル行爲ニ因リテ不動
產ヲ讓渡シタル者ハ其讓渡シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産ニ生シタル増價ニ付キ先取特
權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時讓渡人、共同分割者、工事請負人ニ支拂ヒタル
金錢ノ貸主ハ右同一ノ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第六十六條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 賣買ノ代價及ヒ利息其他ノ負擔ニ付テハ賣主

第二 交換ノ補足額、負擔及ヒ交換物ノ追奪擔保ニ付テハ交換者

第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

此他ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權ヲ有ス

第六十七條 賣買代價、交換補足額ノ外賣買、交換、贈與ノ負擔及ヒ交換其他有償ノ合意ニ
於ケル追奪擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ證書又ハ日後ノ證書ヲ以テ金錢ニテ之ヲ定ムルコ
トヲ要ス

此他右ノ證書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

第六十八條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動産ノ追奪擔保ノ爲メノ
先取特權ハ其追奪カ讓渡ノ時ヨリ十年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一个年内
ニ擔保ノ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追奪カ一个年内ニ生シ且
廢罷ス可カラサル判決ヨリ一个个月内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セ

第三百六十九條 不動産ノ讓渡人ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

第二則 共同分割者ノ先取特權

第三百七十條 社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定或ハ不分物競賣ニ因レル分割ヨリ生スル左ノ價權ノ爲メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ即チ配當過分ノ返還ノ爲メニハ之ヲ負擔セル分割者ニ歸シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第二 不分物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其配當部分ノ不動産又ハ不動産ニ於テ受ケタル追奪ノ擔保ノ爲メニハ他ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ付キ先取特權アリ但各分割者ノ債務ノ部分ニ限ル

第三百七十一條 右ノ擔保ハ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 社員ニシテ他ノ社員ニ對シ補足額又ハ不分物競賣ノ代價ヲ負擔シタル者ノ無資力

第二 分割者ノ一人ノ配當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務者ノ無資力但其債務者ハ

分割者タルト外人タルトヲ問ハス分割ノ當時無資力タリシコトヲ要ス

第三百七十二條 第三百六十八條ハ分割者間ノ追奪擔保ノ先取特權ニ之ヲ適用ス

分割者タルト否トヲ問ハス債務者ノ無資力ニ關シテハ其擔保ハ元本ニ於ケル債務ノ満期ヨリ一个年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ第三者ニ對シテモ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日ヨリ十個年後ニ生スルニ於テハ其擔保ノ負擔ハ止ム

債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其満期カ十個年以上ニ及フトキモ亦同シ

第三百七十三條 第三百六十九條ノ規定ハ分割者ノ先取特權ニモ亦之ヲ適用ス

第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權

第三百七十四條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、土手若クハ堀割ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ爲シタル排泄、灌溉、開墾、置土其他之ニ類似スル工事ヨリ生スル債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ鑛坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖又ハ廢止ニ關スル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ工匠、技師及ヒ工事請負人ニ屬ス

第三百七十五條 右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ先取特權行使ノ當時猶ホ存スルモノノミニ付キ存在ス

右ノ増價ハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現状ヲ明定シ且目論見タル工事ノ概略
ヲ指示スルコトヲ要ス

此第二調書ハ工事ノ受取ニ付キ争アルモ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事
ノ絶止ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ證スルコトヲ要ス

此第三調書ハ配當加入ノ請求ノ當時之ヲ作り且右増價ノ存スルモノヲ證スルコトヲ要ス

第四則 金錢貸主ノ先取特權

第七十六條 前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時又ハ工匠、技師若クハ
工事請負人トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分物競賣ノ代價、交換若クハ分割ノ補足
額又ハ工事ノ代金ノ辨濟ノ爲メ金錢ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リテ直接ニ屬ス但其金錢ノ
貸付及ヒ使用ヲ此等ノ行爲ノ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ後ニ金錢ヲ
貸付タルトキハ貸主ハ財産編第四百八十條及ヒ第四百八十一條ニ定メタル條件及ヒ方式
ニ從ヒ債權者又ハ債務者ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得セス
孰レノ場合ニ於テモ金錢ノ貸主カ債務ノ一分ノミヲ拂ヒタルトキハ貸主ハ其拂ヒタルモ
ノノ割合ニ應シ財産編第四百八十六條ニ從ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

第二款 債權者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ效力及ヒ順位

第七十七條 前款ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ
且保存シタルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十八條 賣買代價ノ爲メノ賣主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ
代價又ハ補足額ノ全部又ハ一分ヲ未タ辨濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニ依ル登
記ヲ以テ之ヲ保存ス

又交換ニ於ケル追奪擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ
先取特權ハ證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價ヲ證書中ニ記載シタ
ルトキニ限ル

第七十九條 分割者ノ先取特權ハ分割證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但其證書ニ不分
物競賣代價又ハ補足額即チ配當過分ノ返還及ヒ追奪擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ
評價ヲ記載シタルトキニ限ル

第八十條 右讓渡又ハ分割ノ證書ニ依ル登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ權利ニ基キ物
上擔保ヲ得タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ先取特權アル讓渡
人又ハ分割者ニ對抗スルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラス
然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右讓渡又ハ分割ノ登記ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

第八十一條 讓渡又ハ分割ノ證書ニ其對價物ノ全部若クハ一分ノ未タ辨濟アラサルコト

又ハ負擔ノ付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ證書ヲ以テ此脫漏ヲ補フコトヲ得且其補脱ハ債權者ノ注意ヲ以テ讓渡又ハ分割ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右ノ補脱ヲ讓渡又ハ分割ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債權者ハ何時ニテモ其補脱ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性ス

右ノ抵當ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

讓渡若クハ分割ノ證書ニ記シタル負擔又ハ擔保ノ評價ヲ日後ノ證書ニ記載シタルトキモ亦同シ但其證書ニ依ル抵當ノ登記ハ其登記ヲ爲シタル日附ニ從ヒテ債權者ノ順位ヲ定ム

第八十二條 讓渡人又ハ分割者ハ其先取特權カ法律上ノ抵當ニ變性シタルトキハ此抵當ノ登記前ニ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解除訴權ヲ行フコトヲ得ス

第八十三條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第七十五條ニ定メタル第一第二ノ證書ニ依リ登記スルヲ以テ之ヲ保存ス

此第一證書ニ依ル登記ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二證書ニ依ル登記ハ其調製ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二證書ニ依ル登記ノ效力ハ第一證書ノ日附ニ遡及シ且工事ノ前又ハ後ニ債務者ト契約シタル各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ先取特權アル債權者ニ保有セシム

利害關係人中ノ一人ノ爲シタル右證書ニ依リテ爲シタル登記ハ委任ナキトキト雖モ他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クル爲メノ同一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ有益ノ時期ニ於テ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス

第八十四條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ證書ニ依ル登記ノ一ヲ爲ササリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二證書ヲ調製シ且次月内ニ之ヲ登記シタルトキハ第一證書ノ遅延登記ノ日附

第二 右ノ三个月内ニ第二證書ヲ調製セス又ハ三个月内ニ之ヲ調製シタルモ次月内ニ之ヲ登記セサルトキハ其第二證書ニ依ル登記ノ日附

第八十五條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初ニ金錢ヲ貸付タル者ノ第七十六條第一項ニ從ヒテ有スル先取特權ハ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス

右貸主カ日後代位ニ因リテ讓渡人、分割者又ハ工事請負人ニ承繼シタルトキ未タ先取特權ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル證書及ヒ代位證書ニ依ル登記ニ因リテ其公示ヲ爲サシム

若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記ニ代位ノ附記ヲ請求ス可シ

又先取特權アル債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡ノ附記ヲ請求ス可シ

民法 債權擔保編

此未ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ遅延シタル代位者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者トノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ駁撃スルコトヲ得ス

第八十六條 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特權又ハ抵當アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ滿期ト爲リタル最終ノ二個年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ配當ニ加入スルコトヲ得ス但滿期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二個年以外ノモノノ爲メ漸次ニ特別ノ抵當登記ヲ爲ス可キ債權者ノ權利ヲ妨ケス

第八十七條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ他ノ債權ヨリ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス

此工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應シ同一ノ順位ニテ其配當加入ヲ定ム

第二 讓渡人又ハ分割者

逐次ノ讓渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊キ者ニ屬ス

金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ貸付タル其金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス

第八十八條 先取特權ノ登記及ヒ其更新、抹消、減少ニ關スル規則ハ先取特權及ヒ抵當權

ニ共通ニシテ之ヲ次章ニ規定ス

第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ效力

第八十九條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付キ第三所持者ニマテ追及ス

第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ辨濟セサルトキハ其債權者ハ第三所持者ニ對シ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得

第九十條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得ノ登記前ニ之ヲ登記シタルトキニ非サレハ其第三所持者ニ移轉シタル不動産ニ付キ追及權ヲ與ヘス

第九十一條 轉得者ノ取得ノ登記前ニ登記セサル讓渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル權原ヲ登記スルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ其登記ヲ爲ササリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月ニハ距離ニ應シテ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ其讓渡人カ十個年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲ス責ナク且舊所有者ノ總テノ先取特權ヲ免カル

第九十二條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其絶止ノ前ニ讓渡ノ登記アリタルモ第一調書ニ依ル登記ニ因リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ調製及ヒ之ニ依ル登記ノ二箇ノ期間カ未タ

經過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二調書ヲ調製シ且之ニ依リテ登記ス可キ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ之ニ應セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス
第百九十二條 先取特權アル債權者ハ追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ爲メニ必要ナル公示ヲ爲ササルモ第三所持者ノ負擔シタル讓受代價ニ付キ辨濟ヲ受クル權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續ノ閉鎖前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ證シタルトキニ限ル

第百九十四條 先取特權ニ關スル追及權、其條件、效力並ニ第三所持者カ所有權徵收ヲ避クル方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第二節第五節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモノハ此限ニ在ラズ

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及ヒ目的

第百九十五條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リテ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先タチテ辨償スル爲メニ充テタル不動産ノ上ノ物權ナリ

第百九十六條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分ナリ但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラズ

第百九十七條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス用益權、賃借權、永借權及ヒ地上權ノ上ニモ此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得

然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミヲ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス
之ニ反シテ所有者ハ其不動産ノ限界ニ因リテ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲スコトヲ得

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス又用方ニ因ル不動産ハ其附著スル不動産ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第百九十八條 左ニ掲グルルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第一 使用權、住居權其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サル財產

第二 財產編第十條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權

第三 同條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不動産ト爲スコトヲ許スル法律カ其抵當ヲ許ササルトキニ限ル

船舶ノ抵當ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

第百九十九條 此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル限リハ此等ノ法律ヲ以テ設定シタル抵當ニ之ヲ適用ス

第二百條 抵當ハ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リテ不動産ニ生スルコト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及フモノトス但他ノ債權者ニ對シテ詐害ナキコトヲ要シ且前章ニ規定シタル如キ工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權ヲ妨ケス

抵當ハ債務者カ縱令無償ニテ取得シタルモノナルモ其隣接地ニ及ハサルモノトス但新圍障ノ設立又ハ舊圍障ノ廢棄ニ因リテ隣接地ヲ抵當不動産ニ合體シタルトキモ亦同シ

第二百一條 意外若クハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ出テタル抵當財産ノ滅失、減少又ハ毀損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ關シ第百三十三條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財産カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲ササルニ因リテ減少又ハ毀損ヲ受ケ此カ爲メ債權者ノ擔保カ不十分ト爲リタルトキハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フル責ニ任ス此補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ應シ滿期前ト雖モ債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百二條 抵當財産ノ差押ナキ間ハ債務者ハ財産編第百十九條及ヒ第百二十條ニ定メタル期間其不動産ヲ賃貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二節 抵當ノ種類

第二百三條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノタリ

第一款 法律上ノ抵當

第二百四條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セズ當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有スルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻ノ日現ニ夫ニ屬スルト

日後之ニ屬ス可キトヲ問ハス其夫ノ總不動産ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同シ

第二 未成年者及ヒ禁治産者カ其後見人ニ對シテ有スル總債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ得ルトヲ問ハス後見人ノ總不動産ニ付キ有スル抵當

第三 國、府縣、市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度ト條件トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ爲メ其不動産ニ付キ有スル抵當

又第百八十一條及ヒ第百八十四條ニ從ヒテ變性シタル先取特權ヨリ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ抵當ト看做ス

第二款 合意上ノ抵當

第二百五條 合意上ノ抵當ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ設定證書ニ示スコトヲ要ス

第二百六條 本邦ニ存在スル財産ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ外國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生ス然レトモ特別法ニ規定シタル條件ニ從フニ非サレハ此合意ニ依リ本邦ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七條 抵當ノ設定證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セスシテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキハ債務者ノ請求ニ因リ債權ノ擔保ニ必要ナル限度ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得

債務者ノ將來ノ財産ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効タリ
第二百八條 抵當ノ設定證書ニハ右ノ外義務ノ原因、體様及ヒ其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコトヲ要ス

義務ノ目的カ金錢タラサルトキハ之ヲ評價ス可シ然レトモ其評價ハ登記ノ時ニ於テモ猶ホ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益權ヲ有シ且有償又ハ無償ニテ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第二百一十一條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ物權ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ此權利ノ時期外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時期ノ滿了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル償金ニ移リタルトキハ債權者此償金ニ付キ其權利ヲ行フ

第二百十條 未成年者、禁治產者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第二百十一條 合意上ノ抵當ハ第九十八條及ヒ第一百十七條ニ於テ動產質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得

右ノ抵當ハ之ヲ設定セシムル爲メ債務者カ何等ノ出捐モ爲ササルトキハ債務者ニ對シテハ恩惠ナリトス

又抵當ハ債權カ無償ナルトキ又ハ有償ナルモ諾約ナクシテ主タル合意以後ニ之ヲ設定シタルトキハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

第三款 遺言上ノ抵當

第二百十二條 抵當ハ遺贈ノ擔保ノ爲メ又ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニシテ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

第三節 抵當ノ公示

第一款 登記ノ條件及ヒ期間

第二百十三條 凡ソ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件ニ從ヒ其不動産所在地ノ登記所ニ於テ登記ヲ爲シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨カル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ於テ登記ヲ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其登記及ヒ日附ノ記載ノミヲ爲ス

第二百十四條 抵當ハ其設定ノ後債務者ノ無資力カ正當ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若クハ過半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキハ有效ニ之ヲ登記スルコトヲ得ス但破産ノ場合ニ於ケル登記ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シテ債權者ノ登記スル權利ノ制限ハ第五節ニ於テ之ヲ規定ス

第二百十五條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ登記ハ法律上又ハ裁判上ノ代人ノヲ爲ス

抵當ノ登記ハ總理代理人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附著シタル行爲ヲ爲ス委任ヲ受ケタル部理代理人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス

又登記ハ債權者ノ委任ナクシテ事務管理者之ヲ爲スコトヲ得

第二百十六條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニテ條件附ナルト否トヲ問ハス債務者ト爲リタル時ヨリ夫又ハ裁判所ノ許可ヲ要セス婦ノ請求ニ因リテ之ヲ登記スルコトヲ得又其登記ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得但第二百二十六條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當滅消ノ權利ヲ妨ケス
婦カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

婦又ハ夫カ登記ヲ爲ササルトキハ縱令委任ナキモ婦ノ親族又ハ姻族ニテ之ヲ爲スコトヲ得但婦ノ故障又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

第二百十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ登記スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從ヒ後見人之ヲ登記スルコトヲ要ス

後見人登記ヲ爲ササルトキハ後見監督人又ハ親族會員其登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲ササルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス

未成年者モ亦自治産者ト爲リタル後ハ其登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス
處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ特別ノ代理人ニテモ登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百十九條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ以テ或ハ自己ト原債權者トノ連名ヲ以テ登記ヲ求ムルコトヲ得

債權者ノ代理人又ハ事務管理者ヨリ登記ヲ求ムルトキハ其名及ヒ分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共ニ記載ス可シ

第二百二十條 債務者カ死亡シタルトキハ登記ハ債權者ノ選擇ニ因リテ其債務者ニ對シ又ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ノ設定シタル抵當ニ關シテハ設定者ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十一條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ登記ハ三十个年間其效力ヲ有ス三十个年後ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ其登記ノ效力ヲ失フ

右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セス但其代人ニ對スル求償ヲ妨ケス

然レトモ三十个年ノ期間満了前ニ登記ヲ更新シ舊登記ノ日附ヲ精確ニ記載シタルトキハ

抵當ノ順位ハ舊登記ト同一ノ日附ニテ存ス

登記ノ効力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新登記ニ同シク其更新ノ日附ニ於テノミ効力ヲ生ス

第二百二十二條 三十年ノ期間ニ於ケル登記ノ更新ハ舊登記後ニ起リタル債務者ノ破産、無資力又ハ死亡ニ拘ハラズ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 登記ニ關スル争ハ抵當財産所在地ノ裁判所ニ之ヲ訴フ可シ

第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤

第二百二十四條 登記ノ抹消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

第一 債權カ無効タリ若クハ銷除ス可キモノタルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ

第二 抵當カ有效ニ設定セラレサルトキ

右ハ第二百三十條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ登記ヲ抹消スルコトヲ妨ケス

第二百二十五條 登記ノ抹消ハ債務者又ハ其承繼人ノ請求ニ因リテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但下ニ規定シタル方式ニ於テ債權者ヨリ抹消ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十六條 婦ノ法律上ノ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セサル場合ニ於テ其債權ノ擔保ニ必要ナルヨリ多キ不動産ニ付キ登記アリタルトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リテ婦ノ債權額ヲ評價セサル場合ニ於テ其債權ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ登記アリタルトキハ夫又ハ其承繼人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 右ニ同シク後見人又ハ其承繼人ハ未成年者又ハ禁治産者ノ擔保ニ必要ナルモノノ外ニ爲シタル登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但親族會議ノ決議ニ因リテ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セス又ハ債權額ヲ評價セサルトキニ限ル

第二百二十八條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ過度ナルトキニ非サレハ第二百七條ニ記載シタル如ク債務者其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

債務者ハ債權者ノ登記シタル債權ノ評價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但設定證書又ハ別證書ヲ以テ評價ヲ爲ササルトキニ限ル

第二百二十九條 遺言上ノ抵當ハ相續ノ不動産ニ付キ遺言者其制限ヲ爲サス又ハ債權ヲ評價セシテ之ヲ設定シタルトキハ相續人其減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 債務カ半額以上消滅シタルトキハ債權者ハ債務者ノ要求ニ因リ三種ノ抵當ニ付キ金額ノミノ登記ヲ減少ス可シ

債務者ハ一分ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ得

第二百三十一條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カレタル不動産又ハ評價ヲ改メタル金額ヲ指示ス

右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ登記ヲ抹消シ第二ノ場合ニ於テハ之ヲ減少ス

第二百三十二條 前數條ニ從ヒ或ル不動産ニ抵當ノ登記ヲ減少シタル場合ニ於テ其不動産カ債權者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債權者ハ

抵當ノ補充ヲ請求スルコトヲ得

三百九十四

第二百三十三條 登記ノ抹消又ハ減少ハ確定判決ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得又證書ヲ以テスルニ非サレハ債權者之ヲ承諾スルコトヲ得ス

第二百三十四條 任意ノ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルニハ債權者其債務ノ辨濟ヲ受ケ又ハ之ヲ追認スル能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス抹消カ右ノ外第二百二十四條ニ記載シタル原因ノ一ニ基クトキハ債權者和解スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

又抹消又ハ減少カ抵當ヲ無償ニテ拋棄スル性質ヲ有スルトキハ債權者無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第二百三十五條 登記ノ抹消又ハ減少ヲ承諾スル爲メノ委任ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

然レトモ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ債權者ノ免責ヲ承諾スル權限ヲ有シタル代理人ニ於テ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルコトヲ得

和解又ハ無償ノ拋棄ニ付テハ委任ハ明示タルコトヲ要ス

第二百三十六條 抹消又ハ減少ヲ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ登記ニ附記スルコトヲ要ス

第二百三十七條 抹消若クハ減少ヲ後日ノ判決又ハ債權者トノ合意ニテ消除若クハ解除シタルトキハ其判決又ハ合意ヲ更ニ登記シ又ハ前登記ニ附記ス此場合ニ於テハ前登記ハ前

債權者ノ爲メ其效力ヲ回復ス然レトモ抹消若クハ減少ノ後ニ於テ不動産ニ付キ權利ヲ取得シ抵當ノ復舊ノ公示前ニ其權利ヲ登記シタル第三者ニハ此登記ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百三十八條 登記、更新抹消又ハ減少ニ訛誤又ハ脱漏アルモ此カ爲メ消除ヲ爲スニ足ラサルトキハ當事者ノ協議又ハ判決ヲ以テ正誤ヲ爲ス

第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位

第二百三十九條 凡ソ不動産ニ付キ登記シタル抵當債權者ハ無特權債權者ニ先タチ其不動産ノ代價ノ配當ニ加入スルコトヲ得

法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ヲ有スル數人ノ債權者間ニ於テハ其配當加入ノ順位ハ數箇ノ登記ヲ同日ニ爲シタルトキト雖モ其登記ノ前後ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十條 登記ハ掲載シタル利息及ヒ定期ノ附從物ニ其經過シタル最後ノ二個年分ニ限リ主タル債權ト同一ノ順位ヲ得セシム但二個年以外ノ利息及ヒ附從物ノ爲メ債權者ノ日後登記ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス然レトモ此登記ハ其日附後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第二百四十一條 抵當ノ順位ハ債權カ條件附ナルトキ又ハ信用ヲ開キテ爲ス貸付ノ如ク漸次ノ支拂ヨリ生スルトキト雖モ亦登記ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十二條 債權者カ數箇ノ不動産ニ付キ抵當ヲ有シ其各箇ノ代價カ同時ニ清算アリシトキハ其債權ハ總不動産ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ分配ス可シ

漸次ノ清算ノ場合ニ於テ右ノ債權者カ不動産中ノ一箇ノ代價ニ因リテ全ク辨濟ヲ受ケ此一箇ノ不動産ニ付キ其債權者ノ次ニ抵當ヲ有スル一人又ハ數人ノ債權者カ爲メニ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其一人又ハ數人ノ債權者ハ他ノ各不動産ニ付テハ其相互ノ順位ヲ以テ右辨濟ヲ受ケタル債權者ノ抵當ニ當然代位ス

第二百四十三條 前條ノ代位ハ原債權者ニ次テ右各不動産ニ付キ登記ヲ爲シタル債權者ニ對シテ其效ヲ生ス

右ノ代位者カ登記ニ其代位ヲ附記シタルトキハ其代位者ヲ順序配當手續中ニ加ハラシムルコトヲ要シ且其承諾アルニ非サレハ何等ノ抹消又ハ減少ヲモ爲スコトヲ得ス

第二百四十四條 凡ソ債權ヲ處分スル能力アル抵當債權者ハ同一債務者ノ他ノ債權者ノ利益ニ於テ自己ノ抵當又ハ其順位ノミヲ拋棄スルコトヲ得但財産編第五百條及ヒ第五百三條ニ於テ更改ニ關シ規定シタルモノヲ妨ケス

若シ抵當債權ヲ數次ニ數人ニ對シ讓渡、拋棄又ハ代位ノ目的ト爲セシトキハ優先權ハ承繼人中登記ニ自己ノ權利ノ設定權原ヲ附記シ又ハ登記ノ有ラサリシトキハ之ヲ爲シテ其取得ヲ第一ニ公示シタル者ニ屬ス

第二百四十五條 右ノ外第八十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二百四十六條 抵當債權者又ハ無特權債權者ハ他ノ抵當ノ登記ナキヲ知リタルコトヲ自任スト雖モ登記ノ欠缺ヲ申立ツル權利ヲ失ハス

第二百四十七條 不動産ノ賣却代價ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受ケサル抵當債權者ハ其殘額ニ付テハ無特權債權者タリ

若シ不動産ノ賣却ニ先タテテ動産有價物ノ配當ヲ爲ストキハ抵當債權者ハ其債權全額ノ爲メ無特權債權者トシテ假ニ其配當ニ加入ス

其後ニ至リ抵當不動産ノ代價ノ配當アルトキハ抵當債權者ハ動産有價物ニ付キ何等ノ辨濟ヲモ受ケサリシカ如ク其配當ニ加入ス然レトモ此配當ニ於テ全ク辨濟ヲ受ク可キ者ハ動産ノ配當ニテ受取リタル金額ヲ控除スルニ非サレハ其抵當ノ配當額ヲ受取ルコトヲ得ス其控除シタル金額ハ動産財團中ニ之ヲ返還ス

不動産ノ代價ノ配當ニ於テ一分ノミノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ付テハ其殘額ニ從ヒ其動産財團ニ對スル權利ヲ定ム但此割合外ニ受取リタルモノハ之ヲ動産財團中ニ返還ス

右ノ返還金額ハ純粹ノ無特權債權者ト有益ニ配當ニ加入スルヲ得サル抵當債權者及ヒ債權ノ一分ノミニ付キ之ニ加入シタル抵當債權者トノ間ニ於テ更ニ之ヲ配當ス

總則

第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ效力

第二百四十八條 抵當不動産カ讓渡サレ又ハ用益權其他ノ物權ヲ負擔シタルトキハ其權原ノ登記前ニ登記ヲ爲シタル抵當債權者ハ第三取得者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ請求スル權利ヲ

保有シ又此不動産ノ賣却代價ヲ以テ辨済ヲ受クル爲メ其不動産ノ徵收ヲ訴追スル權利ヲ附隨ニテ保有ス

然レトモ財産編第一百九條及ヒ第二百二十條ニ規定シタル期間ヲ以テ爲シ又ハ更新シタル賃貸借ハ抵當債權者之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百四十九條 所有權ノ支分權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ債務者其權利ヲ拋棄シタルトキハ其拋棄ノ登記前ニ抵當登記ヲ爲シタル債權者ハ其拋棄ニ拘ハラズ追及權ヲ保有ス

第二百五十條 公正證書ヲ以テ設定シタル抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無特權債權者ニハ競落ノ登記前ニ其抵當登記ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

但第二百十四條ニ掲ケタル場合ニ於テ爲セル登記ノ無効タルコトヲ妨ケス
第二百五十一條 第三所持者ノ破産又ハ無資力ハ其取得ノ登記アルマテハ抵當登記ノ妨得ト爲ラス

第二百五十二條 第三所持者ハ場合ニ從ヒテ左ノ方法ニ依ルコトヲ得

- 第一 抵當債務ヲ辨済スルコト
- 第二 滌除スルコト
- 第三 財産檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコト
- 第四 不動産ヲ委棄スルコト
- 第五 所有權徵收ヲ受クルコト

第一款 抵當債務ノ辨済

第二百五十三條 第三所持者ハ抵當債務ノ滿期ト爲ルニ從ヒ之ヲ辨済スルニ於テハ所有權徵收又ハ妨碍ヲ受クルコト無シ

第二百五十四條 第三所持者ハ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨済シタルトキハ財産編第四百八十二條第一號、第四百八十二條第四號及ヒ第五號ニ從ヒ其辨済ヲ得タル債權者ニ屬スル他ノ抵當擔保及ヒ利益ニ代位ス

又第三所持者ハ其辨済ヲ得サリシ債權者ヨリ所有權徵收ノ訴追ヲ受クルコト有ル可キ場合ノ爲メ其所持セル不動産ノ負擔スル抵當ニ付キ辨済ヲ得タル債權者ニ未定ニテ代位ス

第二款 滌除

第二百五十五條 第三所持者ハ登記シタル總テノ抵當債務ヲ辨済セサルモ債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒ不動産ノ取得代價、其評價若クハ之ニ超ユル金額ヲ拂渡シ又ハ債權者ノ爲メニ之ヲ供託シテ不動産ノ負擔ヲ免カレシムルコトヲ得但下ニ規定セル如キ提供及ヒ滌除ノ手續ヲ爲シタル後債權者ノ明示又ハ默示ノ受諾アリタルコトヲ要ス

第二百五十六條 停止條件附ニテ不動産ヲ取得シタル者ハ條件ノ成就ニ因リテ其權利ノ定マラサル間ハ滌除スルコトヲ得ス
解除條件附ニテ取得シタル者ハ條件ノ到來セサルニ因リテ其權利ノ定マル前ト雖モ滌除スルコトヲ得

此場合ニ於テ第三所持者ノ提供カ受諾セラレタルモ其金額ハ抵當債務ヲ全ク辨済スルニ足ラスシテ其抵當ヲ抹消シタル後第三所持者ノ取得カ條件ノ到來ニ因リテ解除スルニ於テハ抹消ヲ受ケタル抵當債權者ノ登記ハ第二百三十七條ニ從ヒテ之ヲ回復ス

又右ノ場合ニ於テ提供カ受諾セラレスシテ下ニ規定セル如ク不動産ヲ競賣ニ付シタルトキハ競落ハ第三所持者ノ爲メ宣告アリタルト其他ノ者ノ爲メ宣告アリタルト問ハス以後解除條件ヲ免カレシム

第二百五十七條 抵當ヲ濫除スル權利ハ主タル債務者ト爲リ又ハ保證人ト爲リテ自身ニテ抵當債務ノ責ニ任スル第三所持者ニ屬セス

又右ノ權利ハ他人ノ債務ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵當ト爲シタル者ニ屬セス

第二百五十八條 抵當債權者ヲ参加セシメタル總テノ競賣ニ付テハ濫除ヲ爲スノ限ニ在ラス

公用徴收ニ付テモ亦同シ

右ハ抵當債權者ノ其順位ヲ以テ競落代價又ハ徴收償金ノ配當ニ加入スル權利ヲ妨ケス

第二百五十九條 賃借權使用權住居權及ヒ地役權ハ濫除ヲ爲ス限ニ在ラス

此等ノ權利ヲ抵當前ニ設定シタルトキハ其附著ノ儘ニ非サレハ不動産ヲ賣却スルコトヲ得ス

抵當後ニ此等ノ權利ヲ設定シタルトキハ之ヲ斟酌セスシテ不動産ノ賣却ヲ訴追スルコト

ヲ得

然レトモ此末ノ場合ニ於テ第三所持者ハ第二百四十八條第二項ニ記載シタル制限ニ從ヒ賃借權ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百六十條 第三所持者ハ債權者ヨリ訴追ヲ受ケサル間ハ何時ニテモ濫除スルコトヲ得又辨済ヲ爲スカ又ハ不動産ヲ委棄スルカノ催告ヲ受ケタル後一个月内ニ濫除スルコトヲ得但此ニ違フトキハ其權ヲ失フ

然レトモ右ノ失權ハ當然生セス之ヲ請求スルコトヲ要ス但裁判所ハ第三所持者カ正當ノ障礙アリシコトヲ證シ且債權者カ其遅延ノ爲メニ現實ノ損害ヲ受ケサル可キニ於テハ失權ヲ宣告セサルコトヲ得

又債權者ヨリ第二百六十五條第二號ニ規定シタル一个月ノ期間ニ失權ヲ請求セサルニ於テハ失權ヲ宣告スルコトヲ得ス

第二百六十一條 第三所持者ハ濫除ノ準備トシテ第三者ニ對スル自己ノ權利ヲ固定スル爲メ其取得ヲ登記スルコトヲ要ス

右ノ後第三所持者ハ其不動産ノ負擔セル先取特權又ハ抵當ノ目錄ヲ登記官吏ニ要求ス

第二百六十二條 上ニ記載シタル一个月ノ期間ニ第三所持者ハ登記シタル各債權者ト第四百十九條、第四百七十八條及ヒ第四百七十九條ニ從ヒ登記カ抵當ノ登記ニ同シキ效力ヲ有スル債權者トニ左ノ諸件ヲ告知スルコトヲ要ス

第一 取得證書ノ旨趣其日附及ヒ登記ノ日附、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、職業、住所、讓受ケタル不動産ノ性質、其所在地、讓渡ノ代價及ヒ其負擔ヲ指示スル要領書但交換、贈與若クハ遺贈ニ因リテ權利ヲ取得シタルトキハ其評價ヲ指示ス可シ

第二 各抵當登記ノ日附、其帳簿ノ葉數、其債權者ノ氏名、住所及ヒ主タル債權トシテ登記シタル金額ヲ明示スル登記表

第三 第三所持者ハ右ノ債權者カ法律ニ從ヒ且一ヶ月ノ期間ニ増價競賣ヲ求メサルニ於テハ滿期、未滿期又ハ條件附ノ債權ヲ區別セシテ各債權者ノ抵當登記ノ順序ニ從ヒ之ニ不動産ノ代價、其評價若クハ之ニ超ユル金額ノ辨濟又ハ其債權者ノ爲メニ金額ノ供託ヲ爲サントスルノ陳述

第二百六十三條 抵當ヲ登記シタル債權者ノ中ニ先取特權ヲ有スル讓渡人又ハ分割者アルトキハ前條第三號ニ定メタル陳述ニハ此債權者ヲシテ右一ヶ月ノ期間ニ其解除訴權ヲ行ハント欲スル旨ヲ述ヘシムル爲メノ催告ヲ添フルコトヲ要ス但第百八十一條及ヒ第百八十二條ノ明文ニ因リ法律上ノ抵當ニ變性シタル先取特權ヲ有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百六十四條 讓渡證書中ニ抵當ト爲シ及ヒ爲ササル財產アルトキハ取得者ハ抵當財產ノ爲メニノミ提供ヲ爲スコトヲ得又増價競賣ハ此提供ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十五條 凡ソ抵當ヲ登記シタル債權者ニシテ上ニ定メタル提供ヲ受諾セサル者ハ左ノ方式、期間及ヒ條件ヲ以テ抵當財產ノ競賣ヲ要求スルコトヲ要ス

第一 其要求ニハ提供金額ノ上少ナクトモ十分一ノ増價ニテ買受クルコトト其増額シタル代價ノ全部及ヒ費用ノ爲メ十分ナル保證人又ハ擔保ヲ供スル旨ノ陳述トヲ添フルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ其要求ハ無効タリ但此場合ニ於テハ總テノ正本ニ要求者又ハ其特別代理人ノ署名アルコトヲ要ス

第二 右ノ要求ハ提供告知ヨリ一ヶ月内ニ第三所持者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ其要求ハ亦無効タリ

第三 右ノ期間ニ於テ債務者タルト否トヲ問ハス前所有者ニ右ニ同シキ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第四 主タル債務者ニ非サル者カ抵當ヲ設定シタルトキモ亦同一ノ期間ニ於テ其債務者ニ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十六條 讓渡人又ハ分割者ニシテ其解除訴權ノ行使ヲ留保セシテ前條ニ規定シタル如ク増價競賣ヲ要求シタル者ハ其訴權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

若シ讓渡人又ハ分割者カ右ノ訴權ヲ保存セント欲スルトキハ増價競賣ノ爲メ許與セラレタル期間ト同一ノ期間ニ第三所持者ニ其旨ヲ告知スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ無効タリ但主タル債務者ナル前所有者ニ對シテ此ニ同シキ告知ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 定マリタル方式及ヒ期間ヲ以テ増價競賣ノ告知ヲ爲シタルトキハ其競賣ノ要求者ハ抵當ノ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ナクシテ競賣ヲ言消スコトヲ得ス其

債權者ハ此増價競賣ノ實行ヲ要求スルコトヲ得
若シ競賣ノ實行アリタルトキハ第二百七十八條以下ヲ適用ス

第二百六十八條 孰レノ債權者ヨリモ有效ニ競賣ヲ求メサリシトキハ不動産ノ滌除ハ債權者間ノ熟議上若クハ裁判上ノ順序配當ニ依ル辨濟ヲ以テ又ハ債權者ノ名ニ於テスル供託ヲ以テ不動産ヲ滌除ス但此供託ニ付テハ豫メ實物提供ヲ爲スコトヲ要セス
此場合ニ於テ總テノ抵當ハ之ヲ抹消ス其元資ノ不足シタルモノト雖モ亦同シ
第二百六十九條 右ノ如ク滌除ヲ實行シタル後第三所持者ハ左ノ區別ニ從ヒ其讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第一 賣買ノ場合ニ於テハ其賣買代價外ニ提供シ及ヒ辨濟シタルモノノ爲メ

第二 交換其他ノ有償契約ノ場合ニ於テハ讓渡人ニ對スル自己ノ義務外ニ辨濟シタルモノノ爲メ但自己ノ供給シタル對價物ノ返還ヲ受ケサルトキニ限ル

第三 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ遺言者ノ免責ニ付キ辨濟シタルモノノ爲メ

第四 總テノ場合ニ於テ自己ノ負擔シタル滌除手續ノ費用ノ爲メ

第三款 財産檢索ノ抗辯

第二百七十條 主トシテ抵當債務ノ責ニ任セサル第三所持者ハ訴追債權者ニ對シ同一債務ノ爲メニ抵當ト爲リタル他ノ不動産ヲ豫メ檢索シテ之ヲ賣却セシメント求ムルコトヲ得

但此カ爲メニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 其不動産カ義務ヲ履行ス可キ場所ノ控訴院ノ管轄内ニ在ルコト

第二 其不動産カ猶ホ主タル債務者ニ屬スルコト

第三 其不動産カ争ニ係ラサルコト

第四 其不動産カ債權者ノ登記ノ順位ト其價額トヲ斟酌シテ之ニ全部ノ辨濟ヲ得セシムルニ不充ナルコトノ明白ナラサルコト

右ノ抗辯ハ訴追ノ起初ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百七十一條 第三所持者ハ第二十條乃至第二十三條ニ從ヒ保證人ノ分限ヲ以テ己レニ屬スル檢索ノ利益ヲ拋棄シタルトキト雖モ抵當財産檢索ノ抗辯ノ利益ヲ失ハス

第二百七十二條 他人ノ債務ノ爲メ自己ノ不動産ヲ抵當ト爲シタル者ハ檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ訴追前ニ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者ニ付テモ亦同シ

第四款 委棄

第二百七十三條 第三所持者ハ所有權徵收ノ手續中何時ニテモ訴追ノ目的タル不動産ヲ委棄スルコトヲ得其委棄ニ因リ第三所持者ハ訴追債權者ニ所持ノミヲ委付シ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有トヲ保存シテ其危険ヲ擔任ス

第二百七十四條 主タル債務者又ハ保證人トシテ自身ニ債務ヲ負擔シタルモノニ非サル第

三所持者ノミ委棄ヲ爲スコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ辨濟シタル者及ヒ供物保證人ハ訴追中ト雖モ委棄ヲ爲スコトヲ得

第二百七十五條 有效ニ委棄ヲ爲スニハ自身ナルト代人ノ資格ナルトヲ問ハス所有權徵收ノ訴追ニ被告トシテ出頭スル能力ヲ有スルヲ以テ足レリトス

第二百七十六條 委棄ハ委棄者又ハ其部理代理人抵當財産所在地ノ裁判所ノ書記課ニ於テ之ヲ陳述シ其陳述書ニ署名シテ訴追債權者ニ告知スルコトヲ要ス

裁判所ハ訴追債權者又ハ第三所持者其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リテ委棄ニ付テノ管財人ヲ選任ス但所有權徵收ノ訴追ハ此管財人ニ對シテ繼續ス

第二百七十七條 第三所持者又ハ其代人ハ競落アルマテハ何時ニテモ委棄ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ其委棄ヲ言消スコトヲ得此場合ニ於テハ訴追債權者ニ對スル總債務ト其時マテノ費用トヲ一个月内ニ辨濟シ又ハ供託スルコトヲ要ス但他ノ債權者ノ訴追ノ權利ヲ妨ケス又滌除ノ期間カ經過セサルニ於テハ其債權者ニ對スル滌除ノ權利ヲモ妨ケス

第五款 競賣及ヒ所有權徵收

第二百七十八條 第三所持者カ辨濟ヲ爲サス委棄ヲ爲サス又滌除ヲ提出セサルトキハ抵當債權者ハ民事訴訟法ニ規定シタル方式ト公示トヲ以テ不動産ヲ競賣ニ付ス
滌除ノ目的ニテ爲シタル提供ノ受諾ヲ得サル場合ニ於テ増價競賣ノ請求アリタルトキモ

亦同シ

第二百七十九條 讓渡人又ハ分割者カ第二百六十六條ノ明文ニ從ヒ其先取特權又ハ法律上ノ抵當權ヲ閣キテ其解除訴權ヲ行ハント欲スル旨ヲ陳述シタルトキハ競賣前ニ其訴ヲ爲スコトヲ要ス但第三所持者ノ請求ニ因リテ裁判所カ此事ニ付キ定メタル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百八十條 總テノ場合ニ於テ解除ノ請求ナク又ハ其認許ナキトキハ第三所持者ハ競賣ノ際競買人ト爲ルコトヲ得

第三所持者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルトキハ其判決ハ原證書確認ノ證據トシテ其原證書ニ依ル登記ニ之ヲ附記スルノミ

第二百八十一條 第三所持者ニ非サル者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルトキハ其判決ハ所有權移轉ノ證據トシテ特ニ之ヲ登記シ且前登記ニ之ヲ附記ス

第二百八十二條 前條ノ場合ニ於テハ競落ノ不動産ト第三所持者ニ屬スル他ノ不動産トノ間ニ存在セシ地役權ハ一旦混同シタルモ働方及ヒ受方ニテ再生シ其混同ハ解除セラレ

第三所持者ニ其取得前ヨリ屬セシ利益權、賃借權其他ノ所有權ノ支分ニ付テモ亦同シ

第二百八十三條 競落ノ孰レノ場合ニ於テモ第三所持者カ競落ノ不動産ニ付キ登記シタル抵當ヲ有セシトキハ其順位ニテ配當ニ加入ス

第二百八十四條 各債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒテ競落代價ヲ辨濟シ尙ホ剩餘アルトキハ

其剩餘ハ競落人タルト否トヲ問ハス第三所持者ニ屬ス

若シ競落前ニ第三所持者ノ債權者カ右ノ不動産ニ付キ抵當ノ登記ヲ爲シタルトキハ其債權者ハ前所有者ニ對シテ登記シタル債權者ニ次キ配當ニ加入ス

第二百八十五條 第三所持者カ抵當不動産ノ占有中其所爲ニ因リテ之ヲ毀損シ又ハ之ニ必要若クハ有益ノ出費ヲ爲シタルトキハ第三所持者ト抵當債權者トノ間ニ於テ其計算ヲ爲ス

第二百八十六條 第三所持者ハ委棄スルカ又ハ辨濟スルカノ催告ヲ受ケタル後ニ非サレハ債權者ニ對シテ果實ノ計算ヲ爲スコトヲ要セス

第二百八十七條 如何ナル場合ニ於テモ競落代價ノ辨濟又ハ其供託ノ後ハ登記シタル總抵當ハ之ヲ抹消シ不動産ハ滌除セラレ其元資ノ不足シタル抵當モ亦同シ

第二百八十八條 競落ノ後第三所持者ハ左ノ如ク讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第三所持者カ競落人ト爲リタルトキハ第二百六十九條ニ記載シタル如ク賠償ヲ受ク外人ノ利益ニ於テ競落ノ宣告アリタルトキハ第三所持者ハ普通法ニ依リテ追奪擔保ニ付テノ權利ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 賣買其他ノ有償取得ノ場合ニ於テ競落代價カ取得ノ原代價又ハ對價ヲ超過シタルトキハ此差額ハ第三所持者カ權利ヲ有スル損害賠償中ニ増價トシテ之ヲ加フ

第二 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ第三所持者ハ競落カ贈與者若クハ遺言者ノ相續人

ヲシテ抵當債務ヲ免カレシメタル限度ニ非サレハ贈與者又ハ遺言者ノ相續人ヨリ賠償ヲ受ケス

手續ノ費用ハ競落人ヨリ之ヲ第三所持者ニ辨償ス

第六節 登記官吏ノ責任

第二百八十九條 登記官吏ノ民事上ノ責任ニ關スル財產編第三百五十五條ハ抵當登記ノ脱漏又ハ訛誤ニ之ヲ適用ス

第二百九十條 登記官吏カ第三所持者ノ爲メ登記ヲ爲シタル後之ニ交付シタル認證書中一箇又ハ數箇ノ抵當登記ヲ脱漏シ此脱漏ノ爲メ登記債權者カ滌除ノ提供又ハ競落ノ手續ニ加ハラサリシトキト雖モ猶ホ不動産ノ抵當ハ滌除セラレ

第二百九十一條 滌除ノ提供ニ對スル増價競賣ノ爲メ第二百六十五條ニ定メタル期間ノ滿了セサル間ハ脱漏セラレタル債權者ハ其脱漏ヲ第三所持者ニ告知シ之ニ提供ノ通示ヲ求メ増價競賣ヲ要求シ又所有權徵收ノ手續カ終了セサルトキハ之ニ加ハルコトヲ得然レトモ此カ爲メ其手續ヲ遲延スルコトヲ得ス

如何ナル場合ニ於テモ右ノ債權者ハ協議上又ハ裁判上ニテ發開シタル順序配當手續ノ閉鎖セサル間ハ之ニ加ハルコトヲ得

右ハ前記ノ債權者カ脱漏ニ因リテ損害ヲ受ケタルコトヲ疏明スルニ於テハ登記官吏ニ對スル求償權ヲ妨ケス

登記官吏ハ主タル債務者又ハ其保證人ノ免責ノ爲メ右ノ求償ニ因リテ辨濟シタルモノニ付キ之ニ對シテ求償權ヲ有ス

第七節 抵當ノ消滅

第二百九十二條 抵當ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 主タル義務全部ノ確定ノ消滅但更改ノ場合ニ付キ財産編第五百三條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第二 債權者ノ抵當ノ拋棄

第三 時効

第四 滌除但債權者提供ヲ受諾シ且第二百六十八條ニ從ヒテ提供金額ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第五 競落但第二百五十八條及ヒ第二百八十七條ニ從ヒテ競落代價ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第六 抵當不動産ノ全部ノ滅失但第二百一條ニ從ヒテ債權者ノ權利カ其滅失ヨリ生ス可キ賠償ニ移轉スルコトヲ妨ケス

第七 公用徵收但抵當債權者ニ其償金ヲ辨濟スルコトヲ妨ケス

第二百九十三條 義務ノ消滅カ裁判上ニテ認メラレタル原因ニ由リテ取消サレタルトキハ登記ヲ抹消シタリト雖モ抵當ハ其原順位ニ復ス

然レトモ其抵當ハ抹消ノ後新登記ヲ爲ス前又ハ登記ヲ復シタル判決ヲ原登記ニ附記スル前ニ登記ヲ爲シタル債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第二百九十四條 抵當ノ拋棄ハ場合ニ從ヒ有償又ハ無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スル債權者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

債權者其抵當順位ノミノ拋棄ヲ爲ストキモ亦同シ
抵當又ハ順位ノ拋棄ハ默示タルコトヲ得

債權者カ讓渡人ト共ニ抵當不動産ノ讓渡ニ參加シタルトキハ追及權ノミニ關シテ其抵當ヲ拋棄シタリト看做ス但法律上特別ニ其參加ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 抵當ノ時効ハ不動産カ債務者ノ資産中ニ存スル場合ニ於テハ債權ノ時効ト同時ニ非サレハ成就セス

右ノ場合ニ於テ債權ニ關シ時効ノ進行ヲ中斷スル行爲及ヒ之ヲ停止スル原因ハ抵當ニ關シテ同一ノ效力ヲ生ス

第二百九十六條 抵當不動産ノ所有者タル債務者カ其不動産ヲ讓渡シテ取得者又ハ其承繼人カ之ヲ占有スルトキハ登記シタル抵當ハ抵當上ノ訴訟ヨリ生スル妨碍ナキニ於テハ取得者カ其取得ヲ登記シタル日ヨリ起算シ三十年ノ時効ニ因リテノミ消滅ス但債權カ免責時効ニ因リテ其前ニ消滅ス可キ場合ヲ妨ケス

第二百九十七條 眞ノ所有者ニ非サル者カ不動産ヲ讓渡シタルトキハ占有者ハ其善意ナル

ト惡意ナルトニ從ヒ所有者ニ對シテ時效ヲ得ル爲メニ必要ナル時間ノ經過ニ因リ抵當債權者ニ對シテ時效ヲ取得ス

無權原ニテ不動産ヲ占有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百九十八條 第三所持者ノ爲メノ抵當消滅ノ時效ハ登記ノ更新ニ因リテ中斷セラレス然レトモ其時效ハ占有者ノ任意ニテ爲シタル抵當ノ追認及ヒ第二百六十條ニ規定シタル如ク其占有者ニ爲シタル催告ニ因リ其他證據編第九條以下ニ規定シタル如ク總テ抵當權ニ效力ヲ與フル行爲ニ因リテノミ中斷セラル
右ノ時效ハ債權ニ附著スル期限又ハ條件ニ因リテ停止セラレス但債權者ハ證據編第二百十八條ニ規定シタル如ク其權利ヲ保存スルコトヲ得
此他證據編第二百三十一條乃至第二百三十六條ニ規定シタル停止ノ原因ハ抵當ニ之ヲ適用ス

○證據編

民法證據編目錄

第一部 證據	至第四百十七條	丁
總則	至第四百十七條	丁
第一章 判事ノ考覈	至第四百十七條	丁
第一節 當事者申述ノ聽取、係爭物並ニ證書外ノ書類ノ調査及ヒ法律ノ解釋	至第四百十七條	丁
第二節 臨檢	至第四百十九條	丁
第三節 鑑定	至第四百十九條	丁
第二章 直接證據	至第四百二十條	丁
第一節 私書	至第四百二十條	丁
第一款 私署證書	至第四百二十四條	丁
第二款 署名、捺印セサル證書	至第四百二十五條	丁
第二節 口頭自白	至第四百二十六條	丁
第一款 裁判上ノ自白	至第四百二十六條	丁
第二款 裁判外ノ自白	至第四百二十七條	丁
第三節 公正證書	至第四百二十七條	丁
民法證據編 目錄	四百十三	

第四節 反對證書	自第五十條	四百二十八丁
第五節 追認證書	自第五十二條	四百二十九丁
第六節 證書ノ謄本	自第五十三條	四百三十丁
第七節 證人ノ陳述	自第五十六條	四百三十二丁
第八節 世評	自第七十二條	四百三十五丁
第三章 間接證據	第七十三條	全
第一節 法律上ノ推定	自第七十四條	全
第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定	自第七十七條	全
第二款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定	自第七十八條	四百三十六丁
第三款 輕易ナル法律上ノ推定	自第八十五條	四百三十八丁
第二節 事實ノ推定	第八十七條	全
第二部 時效	第八十八條	四百三十九丁
第一章 時效ノ性質及ヒ適用	自第八十九條	全
第二章 時效ノ拋棄	自第九十九條	全
第三章 時效ノ中斷	自第一百條	四百四十一丁
第四章 時效ノ停止	自第一百二十四條	四百四十二丁
第五章 不動產ノ取得時效	自第一百三十七條	四百四十六丁
	自第一百三十八條	四百四十九丁
	自第一百四十三條	

第六章 動產ノ取得時效	自第四百四十四條	四百五十丁
第七章 免責時效	自第四百四十九條	四百五十一丁
第八章 特別ノ時效	自第四百五十三條	四百五十二丁
附則	自第四百六十三條	四百五十五丁
	第四百六十四條	

民法

證據編

第一部 證據

總則

第一條 有的又ハ無的ノ事實ヨリ利益ヲ得ンカ爲メ裁判上ニテ之ヲ主張スル者ハ其事實ヲ證スル責アリ

相手方ハ亦自己ニ對シテ證セラレタル事實ノ反對ヲ證シ或ハ其事實ノ效力ヲ減却セシムル事實トシテ主張スルモノヲ證スル責アリ

第二條 自己ノ主張ノ全部又ハ一分ヲ法律ニ從ヒテ證セス又ハ判事カ證據ヲ査定スル權ノ自由ナル場合ニ於テ判事ニ此主張ノ心證ヲ起サシメサリシ原告若クハ被告ハ其證セサリシ點ニ付キ請求又ハ抗辯ニ於テ敗訴ス

第三條 當事者ノ一方ハ或ル事實ノ證據カ將來己レノ爲メニ利益アルトキハ其利益ト證據喪失ノ危險トヲ疏明シテ訴訟ノ起ラサル前ト雖モ其事實ノ證據ヲ舉クルコトヲ裁判上主トシテ請求スルコトヲ得

第四條 下ニ定メタル規則ハ物權、人權及ヒ人ノ身分ニ關スル證據ニ共通ノモノトス但特別ノ規定ヲ妨ケス

第五條 證據ハ左ノ諸件ヨリ成ル

第一 判事ノ考覈

第二 直接證據

第三 間接證據

第一章 判事ノ考覈

第六條 判事ハ左ノ諸件ニ依リ主張セラレタル事實ノ確實ヲ得タルトキハ自己ノ考覈ニ依リテ爭ヲ決スルコトヲ得

第一 當事者又ハ其代人ノ申述ノ聽取、係爭物竝ニ證書外ノ書類ノ調査及ヒ法律ノ解釋

第二 臨檢

第三 鑑定

第一節 當事者申述ノ聽取、係爭物竝ニ證書外ノ書類ノ調査及ヒ法律ノ解釋

第七條 當事者ノ自白アル場合ノ外當事者又ハ其代人ノ申述及ヒ説明ヨリ請求若クハ抗辯ノ證セラレサルコト又ハ尙ホ早キコトノ顯ハルルニ於テハ判事ハ其請求若クハ抗辯ヲ棄却シ又ハ他日本案ノ判決ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ス
右判事ノ心證カ係爭物及ヒ證書外ノ書類ノ調査ヨリ生スルトキモ亦同シ

第八條 受ケタル損害若クハ失ヒタル利益其他原因ニ爭ナク供給ス可キ價額ニ付キ爲ス可キ評價ノミニ爭ノ存スル場合ニ於テ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ此評價ニ必要ナル元素ヲ得タルトキハ自ラ其評價ヲ爲スコトヲ得

第九條 事實ニ爭ナク法律ノ點ノミニ爭ノ存スルトキハ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ法律ノ規定ヲ其精神ト明文トニ依リテ解釋シ且條理ト公道トノ普通原則ニ依リテ之ヲ補完シ自己ノ心證ヲ取ル

第二節 臨檢

第十條 境界、地役、占有、財産ノ損害及ヒ不動産工事ノ執行ニ關スル爭其他此ニ類似ノ爭ニ付テハ勿論裁判所ニ移送スルコトヲ得サル動産ノ形狀ヲ證スルニ關スルトキト雖モ判事ハ主張セラレタル事實ヲ直接ニ知ルコトヲ以テ訴訟事件ヲ明カナラシムルニ有益ナリト思考スルトキハ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ係爭物又ハ爭ヲ決定ス可キ元素ノ存在スル場所ニ臨檢スルコトヲ得

第三節 鑑定

第十一條 法律ニ於テ鑑定ニ依ル可キ旨ヲ定メタル場合ノ外判事ハ爭ノ判決ニ付キ特別ノ知識ヲ要スルトキハ何時ニテモ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ自己ノ考覈ヲ助ケシムル爲メ鑑定人ノ報告ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得
判事ハ鑑定人總員一致ノ説ト雖モ之ニ從フ義務ナシ

第二章 直接證據

第十二條 左ノ諸件ニ於テハ人ノ證言ヨリ生スル直接ノ證據アリトス

第一 私書

第二 口頭自白

第三 公正證書

第四 證人ノ陳述

第一節 私書

第十三條 私書ノ證據力ハ其私書ノ對抗ヲ受クル當事者ノ之ニ署名シ又ハ捺印シタルト否トニ從ヒテ輕重アリ

第一款 私署證書

第十四條 私署證書ハ之ヲ以テ對抗セラルル者ニ不利ナル事實ノ陳述又ハ追認ヲ記載シ且其署名及ヒ印章又ハ其一アルトキハ署名者、捺印者ノ裁判外ノ自白即チ證言ヲ成スモノトス

右同一ノ條件ヲ有スル書狀ハ私署證書ト同一ノ證據力ヲ有ス

第十五條 自己ノ利益ニ於テ私署證書ヲ有スル者カ或ル者ヲ其署名者ナリト主張シ又ハ思考スル場合ニ於テハ爭ノ生スル前ト雖モ其者ニ對シ手跡、署名及ヒ印章ノ追認ヲ請求スルコトヲ得

署名者ナリト主張セラレタル者ハ其手跡、署名及ヒ印章ノ真正ナルコト又ハ其一ノ真正ナルコトヲ明確ニ追認シ又ハ否認スルコトヲ得ルノミ

裁判所ヨリ本條ノ規定ノ口諭ヲ受ケタル者否認ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其否認セサル得ス

モノニ付テハ之ヲ追認シタルト認定スルコトヲ得

第十六條 印章ニ關シテハ其印章ヲ提示セラレタル者ハ其印章ノ自己ノ印章ニ相違ナキコトヲ追認スルモ押捺ハ自身又ハ自己ノ許諾ニテ之ヲ爲シタルヲ否認スルコトヲ得但總テノ方法ヲ以テ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

此追認證書ヲ與フル前ニ右ノ異議ヲ留メサリシトキハ其後ニ至リ右ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス

又其署名又ハ印章ヲ追認シタルトキハ其署名又ハ印章ノ獲ラレシ手段タル強暴、錯誤又ハ詐欺ヲ最早主張スルコトヲ得ス但強暴カ既ニ止ミ又ハ錯誤若クハ詐欺ヲ既ニ發見シ且此事ニ付キ何等ノ異議ヲ留メスシテ追認ヲ爲シタルトキニ限ル

異議ヲ留メタルトキハ追認證書ニ之ヲ記ス可シ

第十七條 署名者ナリト主張セラレタル者ノ相續人、承繼人又ハ代人ニ對シテ追認ノ請求アリタルトキハ被告ハ或ハ自己ノ代表スル者ノ署名若クハ印章ヲ知ラサル旨或ハ其使用ノ不確實ナル旨ヲ陳述スルニ止マルコトヲ得

右ノ相續人、承繼人又ハ代人ハ印章ノ不正當ナル押捺又ハ承諾ノ瑕疵ヨリ生スル無効ノ方法ヲ申立ツル權利ヲ失ハス但此事ニ關シ異議ヲ留ムルコトヲ怠リタルトキト雖モ亦同シ

第十八條 被告ハ異議ヲ留メスシテ署名又ハ印章ヲ追認シタルト雖モ後ニ捺印白紙ノ濫用又ハ署名若クハ印章ノ偽造アリタルコトヲ證スル權利ヲ失ハス

然レトモ右ノ追認アリタルコトヲ知り其證書ニ依リ善意ニテ約定シタル第三者ニ證書無効ノ方法トシテ捺印白紙ノ濫用ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 一人又ハ數人ノ證人カ私署證書ニ加署シ又ハ加印シタルトキハ其證人ヲ手跡驗眞ニ召喚ス

第二十條 手跡、印章又ハ署名ノ驗眞ノ請求ニ關スル方式並ニ期間及ヒ被告又ハ其代人ノ出席セサルニ因リ此等ノ者ニ於テ印章又ハ署名ヲ追認シタリト爲スコトヲ得ヘキ場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ定ム

署名者ナリト主張セラレタル者ノ明確ニ否認シ又ハ其相續人若クハ承繼人ノ追認ヲ爲ササル場合ニ於ケル手跡驗眞手續ノ規則ニ付テモ亦同シ

第二十一條 雙務契約ヲ證スル私署證書ハ反對ノ利益ヲ有スル當事者間ニ正本二通ヲ作り且之ニ署名又ハ捺印スルコトヲ要ス

又各正本ニハ二通ヲ作りタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス
然レトモ當事者ハ一通ノ證書ヲ作ルコトヲ得但其證書中指定シタル第三者ニ之ヲ寄託スルコトヲ合意シタルトキニ限ル

右ノ場合ニ於テ第三者ハ各當事者ノ求ニ應シテ其證書ヲ示ササル可カラズ但當事者雙方ノ承諾ナクシテ之ヲ交付スルコトヲ得ス

第二十二條 證書ノ調製及ヒ其數ノ附記又ハ證書ノ寄託ハ當事者カ合意ノ組成ヲ繋ラシメ

タル條件ト看做ス

然レトモ前條ニ從ヒテ證書ノ調製アラサリシ契約ノ全部又ハ一分ヲ履行シタル當事者ハ最早條件ノ不履行ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條 片務契約ヲ證スル私署證書ニ金錢其他ノ定量物ヲ供與シ辨濟シ又ハ返還スル諾約ヲ包有スル場合ニ於テ債務者カ證書ノ本文ヲ自書セサルトキハ債務者ハ其署名若クハ捺印ノ外尙ホ金額若クハ數量ノ文字ニ捺印スルコトヲ要ス但數人ノ債務者アルトキハ其中ノ一人此捺印ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第二十四條 二通ノ正本及ヒ前條ノ方式ハ商事ニ付テハ之ヲ要セス

第二十五條 前數條ノ方式ニ從ヒ調製シタル私署證書ニシテ其對抗ヲ受クル者カ追認シ又ハ裁判上ニテ其者カ追認シタリト爲シタルモノハ其正文及ヒ之ト直接ノ關係ヲ有シ且之ヲ補完スル文言ニ付テハ其者ニ對シテ完全ナル證據トス

此他ノ文言ハ書面ニ因ル證據端緒ノミニ之ヲ用ユルコトヲ得

第三十八條ニ記載シタル自白不可分ナル原則ハ證書ノ各部分ニ之ヲ適用ス

第二十六條 證書カ第十八條ニ規定シタル如ク捺印白紙ノ濫用又ハ偽造ノ攻撃ヲ受ケタルトキハ其證據力ハ刑事裁判所ニ被告ノ送致アルニ因リテ停止セラレ其裁判所ノ判決ノ確定ト爲ルマテ民事ノ判決ヲ中止ス

嫌疑アル人ノ死亡其他ノ原因ニ由リテ刑事審問ノ開カレサリシトキハ民事裁判所ハ刑事

不受理ノ理由ニ付キ裁判アルマテ本案ノ判決ヲ中止ス
又刑事審問中ナルトキハ民事裁判所ハ當事者ノ要求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其判決ヲ中止
スルコトヲ得

第二款 署名、捺印セサル證書

第二十七條 商人ノ帳簿ハ總テノ人ノ爲メ其商人ニ對シテ證據ヲ爲ス然レトモ其帳簿ヲ援
用スル者ハ此ヨリ生ズル自白ヲ分ツコトヲ得ス

此他右帳簿ノ證據力ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二十八條 非商人ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ノ爲メ證據ヲ爲サス

右ノ帳簿及ヒ覺書ハ其者ニ對シテ區別ニ從ヒテ證據ヲ爲ス

第二十九條 債權者ノ書面ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ爲メ其債權者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第一 債務者ノ辨濟其他ノ免責ヲ明カニ掲クルトキ但債權者ニ於テ債務者ニ交付スル
爲メ準備セル受取證書タルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二 債務者ノ證書又ハ從來ノ受取證書ニ免責ヲ書込ニ且其書類カ債務者ノ手ニ存ス
ルトキ

第三十條 債務者ノ書面ニ其義務ヲ掲ケ且之ヲ以テ債權者ノ證書ノ用ニ供スルモノタルコ
トヲ記載スルトキハ其書面ハ債務者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ抹殺シタル書面ハ之ヲ斟酌セス但其抹殺カ詐害又ハ錯誤

ニ出テタルコトノ證アルトキハ此限ニ在ラス

第三十二條 非商人ハ裁判上ニテ帳簿及ヒ覺書ヲ差出タス義務ナシ然レトモ任意ニテ之ヲ
差出タシタルトキハ爭ニ關スルモノヲ抄録シタル後ニ非サレハ之ヲ取戻スコトヲ得ス但
抄録ヲ爲スニハ其者ノ出席ノ上又ハ之ヲ合式ニ召喚シタルトキニ限ル

第二節 口頭自白

第三十三條 口頭自白ハ一方ノ當事者カ己レニ不利ナル權利上ノ結果ヲ生スルコト有ル可
キ事實ニ付キ爲スモノナリ其自白ハ裁判上ノモノ有リ裁判外ノモノ有リ

第一款 裁判上ノ自白

第三十四條 裁判上ノ自白ハ自發ノモノ有リ又ハ民事訴訟法ニ規定シタル本人訊問ニ因リ
テ爲スモノ有リ

第三十五條 自白ハ其自白ニ繫ル權利ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ爲
スコトヲ得ス但法律上自白ノ證據ヲ禁シタル事實ニ非サルトキニ限ル

代理人ノ爲シタル自白ハ其管理行爲ニ關スル外特別ノ委任ニ依リタルトキニ非サレハ有
效ナラス但裁判上ノ代人ノ自白ト其陳述取消ノ方式及ヒ條件トニ關スル民事訴訟法ノ規
定ヲ妨ケス

第三十六條 前條ニ從ヒテ爲シタル自白ヲ相手方ノ受諾シ又ハ之ヲ裁判所ニ於テ認メタル
トキハ其自白ハ之ヲ爲シタル者ニ對シテ完全ノ證據ヲ爲ス

然レトモ其自白ハ事實ノ錯誤ノ爲メニ之ヲ言消スコトヲ得

第三十七條 自白ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ言消スコトヲ得ス

然レトモ相手方ノ權利ヲ直接又ハ間接ニ追認シタル者ハ其權利ノ原因及ヒ存續ヲ爭フ權能ヲ失ハス

第三十八條 複雑ナル自白ヲ援用セント欲スル者ハ陳述セラレタル數箇ノ事實ニ關シ其自白ヲ分ツコトヲ得ス但此等ノ事實カ相牽連シタルトキニ限ル

然レトモ主タル事實ヲ變更スル事實ノ主張ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三十九條 裁判上ノ自白ノ效力ハ裁判所ノ管轄違カ公ノ秩序ニ關セサルモノタルトキハ其管轄違ニ因リテ無効ト爲ラス

反對ノ場合ニ於テハ自白ハ裁判外ノモノトシテノミ有效ナリ

第四十條 一方ノ當事者カ訴訟事件ノ或ル事實ノ存在ニ付キ陳述ス可キノ求ヲ受ケテ其事

實ヲ爭ハサルニ因リ之ヲ追認シタルト看做ス場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十一條 一方ノ當事者カ癡疾其他ノ原因ニ由リテ語ルコトヲ得スト雖モ書面又ハ容態ヲ以テ裁判所ニ答フルコトヲ得ルニ於テハ裁判上ノ自白ノ規則ヲ之ニ適用ス

第二款 裁判外ノ自白

第四十二條 裁判外ノ自白ハ相手方又ハ其代人ノ面前ニ於テ口頭ニテ又ハ此等ノ者ニ送付シタル信書若クハ書類ニテ之ヲ爲シタルニ非サレハ其效ヲ有セス

此末ノ場合ノ外口頭ノ自白ヲ受ケ及ヒ證スル資格ヲ有スル官廳ニ於テ更ニ其自白ヲ爲サ

サリシトキハ人證ヲ許ス場合ニ非サレハ證人ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス

第四十三條 裁判上ノ自白ノ有效ナル爲メ要スル能力、其證據力、其言消及ヒ其不可分ニ關スル前數條ノ規定ハ裁判外ノ自白ニ之ヲ適用ス

然レトモ判事ハ確實ニシテ明白ナル自白ニ非サレハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

第四十四條 上ノ規定ハ義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ法律上ニテ默示ノ自白ト看做ス可キ場合ヲ妨ケス

第四十五條 裁判外ノ自白ハ有效ニ之ヲ言消シタルト雖モ相手方ノ利益ニ於テ時効ノ中斷ヲ生ス然レトモ自白ノ日以後ニ經過ス可キ時効ハ言消ノ日ヨリ再ヒ進行ス

第三節 公正證書

第四十六條 公正證書ハ公吏カ當事者ヨリ證スルコトヲ託セラレタル事實ニ付テノ證言ナリ

又官廳ノ代人トシテ事ヲ行フ官吏ノ調製シタル證書ハ公正ナリ

證書ハ公吏カ場所、證書ノ性質及ヒ其證書ニ關係スル人ニ付キ管轄ヲ有シ且法律ニ定メタル方式ニ從ヒテ之ヲ作リタルニ非サレハ公正ナラス

公證人其他當事者ノ囑託ニ應ス可キ公吏ノ管轄及ヒ其證書ノ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ定

第四十七條 前條ニ從ヒテ作リタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ公吏自身ニテ又ハ其面前

ニテ爲シタル行爲及ヒ申述ニ付キ其吏員ノ陳述ノ證據ヲ爲ス

此證書ハ之ニ記載シタル日附ニ付キ右同一ノ證據ヲ爲ス

公吏ノ名ニテ作リ且其署名及ヒ印章ヲ具ヘタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ其吏員ヨリ出テタルモノト推定ス

偽造申立手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 公正證書ノ證據力ハ偽造ノ申立ニ因リテ之ヲ停止ス其執行力ニ付テモ亦同シ

主文ト直接又ハ間接ノ關係アル文言ニ關シテハ第二十五條ノ規定ヲ適用ス

第四十九條 證書ニ公正證書トシテ有效ナル爲メ上ニ定メタル條件ノ一ヲ缺クコト有ルモ

出捐ヲ爲ス總テノ當事者カ現實ニ之ニ署名シ又ハ捺印シタルトキハ其證書ハ第二十一條

及ヒ第二十三條ニ定メタル條件ヲ履行セスト雖モ私署證書トシテ有效ナリ

第四節 反對證書

第五十條 當事者ハ祕密ニ存シ置ク可キ反對證書ヲ以テ公正證書又ハ私署證書ノ效力ノ全

部又ハ一分ヲ變更シ又ハ滅却スルコトヲ得然レトモ其反對證書ハ公正證書タルトキト雖

モ署名者及ヒ其相續人ニ對スルニ非サレハ效力ヲ有セス

然レトモ當事者ノ債權者及ヒ特定承繼人カ當事者ト約定スルニ當リ反對證書アルヲ知り

タルコトヲ證スルニ於テハ之ヲ以テ其債權者及ヒ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

第五十一條 不動產權利ニ關スル反對證書カ或ハ登記ニ因リ或ハ其附記ニ因リテ公ニ爲サ

レタルトキハ其反對證書ハ通常證書ノ效力ヲ取得ス但總テ遡及ノ效力ヲ有セス

第五十二條 孰レノ場合ニ於テモ一方ノ當事者ノ總テノ承繼人ハ他ノ當事者及ヒ其相續人

ニ反對證書ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第五節 追認證書

第五十三條 追認證書ハ當事者ノ一方カ己レニ不利ナル公正又ハ私署ノ原證書ノ成立ヲ追

認スル證書ナリ

右ノ證書ハ下ノ二箇ノ場合ヲ除キ原告ヲシテ原證書ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス又其

證書中ニ原證書ヨリ更ニ多ク又ハ更ニ少キ事項ヲ記シ又ハ之ト異ナリタル事項ヲ記スル

モノハ其效ナシ但追認證書中ニ之ヲ原證書ニ代用ス可キ旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在

ラス

第五十四條 左ノ二箇ノ場合ニ於テハ追認證書ハ原證書滅失ノ證アルトキ之ニ代ハルモノトス

第一 追認證書ニ原證書ノ事項ヲ再掲シタル旨ヲ記載スルトキ

第二 追認證書ノ日附ヨリ二十年ヲ經過シ且之ヲ援用スル者カ其證書ノミヲ既ニ權

利ノ行使ニ用井タルトキ

第五十五條 前條ノ場合ノ外原告カ原證書ヲ差出タスコトヲ得サルトキハ追認證書ハ其利

益ニ於テハ書面ニ因ル證據端緒トシテ有效ナリ
總テノ場合ニ於テ追認證書ハ時効ヲ中斷ス

第六節 證書ノ謄本

第五十六條 裁判所又ハ當事者ヨリ正本ノ差出ヲ求ムルニ於テハ證書ノ謄本ハ之ヲ援用スル者ヲシテ其正本ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス但其者カ正本ノ滅失ヲ證シタルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ公正ノ正本又ハ裁判上追認アリタル私署ノ正本カ原本トシテ公吏ノ許ニ藏メラレタル場合ニ於テ裁判所ニ其正本ヲ差出タスコトハ裁判所ノ命令ニ依リ民事訴訟法及ヒ公吏ノ規則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第五十七條 正本ノ滅失シタルトキ其謄本ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ正本ト同一ノ證據力ヲ有ス

第一 公吏ノ作リシ公正證書ノ正式謄本タルトキ

第二 公正證書ノ謄本又ハ裁判上追認アリ且原本トシテ公吏ノ許ニ藏メタル私署證書ノ謄本ヲ當事者ノ要求ニ因リ其相手方ノ面前ニテ其公吏ノ作リタルトキ

第三 當事者出席ノ上又ハ合式ニ之ヲ召喚シタル上ニテ公吏カ裁判所ノ命ニ依リテ其謄本ヲ作リタルトキ

第四 右三箇ノ場合ノ外適法ニ正本ヲ預リタル公吏ノ作リシ謄本カ異議ヲ受ケスシテ

其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且當事者間ニ於テ主張セラレタル權利ニ關シ裁判上又ハ裁判外ニテ既ニ援用セラレタルトキ

謄本ニハ左ノ諸件ヲ附記スルコトヲ要ス

右第一ノ場合ニ於テハ其謄本ハ正式謄本タルコト

第二ノ場合ニ於テハ當事者ノ面前ニテ作リタルコト

第三ノ場合ニ於テハ裁判所ノ命ニ依リテ作リタルコト

總テノ場合ニ於テ其謄本ヲ正本ト校合シタル旨又ハ其謄本ノ正本ニ符合スル旨ヲ之ニ附記スルコトヲ要ス

第五十八條 前條ニ記載シタル四箇ノ場合ノ外ハ公吏ノ作リタル證書ノ謄本ハ書面ニ因ル證據端緒ノ用ヲ爲スノミ

第五十九條 公吏ノ作リタル謄本ノ復寫ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ限り單純ナル參考書ノ用ヲ爲スノミ

然レトモ公正證書ノ謄本ヲ登記ノ公簿ニ謄寫シタルトキハ其謄寫ハ書面ニ因ル證據端緒ナリ

裁判上追認アリタル私署證書ノ正本ノ右ニ同シキ謄寫ハ亦書面ニ因ル證據端緒ノ效力ヲ有ス

謄寫カ其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且異議ヲ受クルコト無ク既ニ行使セラレタルトキハ

其謄寫ハ第五十七條第四號ニ從ヒテ完全ノ證據トス

第七節 證人ノ陳述

第六十條 物權又ハ人權ヲ創設シ、移轉シ、變更シ又ハ消滅セシムル性質アル總テノ所爲ニ付テハ其所爲ヨリ各當事者又ハ其一方ノ爲メニ生スル利益カ當時五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ公正證書又ハ私署證書ヲ作ルコトヲ要ス

人證ハ右ノ價額ヲ超過スルニ於テハ法律上明示若クハ默示ニテ例外ト爲シタルトキニ非サレハ裁判所之ヲ受理セス

第六十一條 雙務契約ニ於ケル證書ノ必要ハ權利ノ最高ナル價額ニ依ル

第六十二條 請求又ハ抗辯ノ目的カ金錢ニ非サル場合ニ於テ相手方カ爭ノ價額五拾圓ヲ超過スル旨ヲ陳述シテ人證ニ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ訴訟ノ元素ニ從ヒ又ハ鑑定ニ從ヒテ豫メ假ノ評價ヲ爲ス

第六十三條 書面ヲ作リタル場合ニ於テハ書面ニ反スル事項若クハ書面外ノ事項ヲ證スル爲メ又ハ書面ノ意義ヲ變更ス可キ様其調製ノ際若クハ其前後ニ申述シタルモノヲ證スル爲メニハ縱令五拾圓ヨリ少ナキ利益ニ關スルモ人證ヲ許サス

此禁止ハ辨濟、免除、更改其他ノ義務消滅ノ原因ヲ證スル爲メ又ハ書面ヲ以テ證シタル物權ノ消滅又ハ變更ヲ證スル爲メ上ニ定メタル制限内ニ於ケル人證ヲ妨ケス

總テノ場合ニ於テ主張セラレタル事實ノ日附及ヒ場所又ハ履行ノ爲メ口頭ニテ定メタル

時期及ヒ場所ノ脫漏ハ人證ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ得但此事ヨリ生スル利益ヲ主タル利益ニ加ヘテ價額五拾圓ヲ超過セサルトキニ限ル

第六十四條 爭ノ利益カ五拾圓ヲ超過スル場合ニ於テハ原告又ハ被告ハ縱令其以下ノ數額ニ請求又ハ抗辯ヲ減スルモ人證ヲ許サス

五拾圓ヲ超過セサル請求又ハ抗辯カ此數額ヲ超過シタル價額ノ殘餘ナルトキ亦同シ

第六十五條 前條ニ規定シタル二箇ノ場合ニ於テ證人訊問ニ因リ五拾圓ヲ超過シタル利益ナルコトヲ發見シタルトキハ人證ヲ許シタル裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ要ス

此他證人訊問ニ因リ法律上之ヲ許ササル事情ヲ發見シタル場合ニ於テモ亦同シ

第六十六條 上ノ規定ハ填補利息、過怠約款又ハ契約ニ從ヒテ返還ヲ受ク可キ果實ノ計算ヲ加フルカ爲メニ五拾圓ノ額ヲ超過スル場合ニ於テ原告又ハ被告カ證人ヲ以テ其主タル債權ヲ證スル爲メ此從タル債權ヲ拋棄シ得ル妨ト爲ラス

右ノ超過カ遲延利息又ハ要約セサル損害賠償又ハ請求後ニ返還ヲ受ク可キ果實ノミヨリ生スルトキハ全部ニ付キ人證ヲ許ス

第六十七條 書面ニ依リ全ク證セラレスシテ各別ニ人證ノ許サル可キ數箇ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ其原因ノ如何ニ拘ハラス一箇ノ訴狀ニ其數箇ノ請求ヲ併合スルコトヲ要ス但其請求カ總テ滿期ノモノニシテ同一裁判所ノ管轄ニ屬スルモノタルトキニ限ル

右ノ手續ヲ爲ササルニ於テハ最早其脫漏シタル請求ニ付キ人證ヲ許サス

右ノ規定ハ同一ノ請求ニ對シ數箇ノ抗辯ヲ以テ對抗セント主張スル者ニ之ヲ適用ス
第六十八條 前條ニ記載シタル如ク併合シタル數箇ノ請求又ハ抗辯カ五拾圓ノ價額ヲ超過
スルトキハ人證ヲ許サス但此請求又ハ抗辯カ相異ナル原因ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラ
ス

第六十九條 左ノ場合ニ於テハ争ノ價額ノ如何ニ拘ハラズ人證ヲ許ス

第一 書面ニ因ル證據端緒ノ存スルトキ

證據端緒トハ之ヲ以テ對抗セラルル人又ハ其人ヲ代表シタル者ヨリ出テタル總テノ

書面ニシテ主張シタル事柄ニ付キ事實タルノ感ヲ起サシムルモノヲ謂フ

主張シタル事柄ノ書面ニ因ル證據端緒アルトキハ書面外ノ事項又ハ書面ニ反スル事

項ニ付キ人證ヲ許ス

第二 原告又ハ被告カ不可抗力ニ因リ又ハ自己ノ過失若クハ懈怠ニ歸ス可カラサル意

外ノ事ニ因リテ其證書ヲ失ヒタルコトヲ證スルトキ

第三 主張シタル事柄ノ有リタル當時利害關係人カ書證ヲ得ル能ハサリシトキ

第七十條 前條第三號ハ殊ニ左ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一 財産取得編第二百二十條及ヒ第二百二十一條第一項ニ規定シタル急迫寄託

第二 事變不期ノ危険又ハ急迫ナル必要ノ場合ニ於テ負擔シタル義務

第三 合意外ノ原因ヲ有スル義務但此場合ニ於テ不當ノ利得不正ノ損害又ハ法律ノ

規定ヨリ生シタリト主張スル義務カ書面ヲ以テ證ス可キ性質ノモノタル權利行爲ヲ
推量セシムルトキハ豫メ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十一條 法律カ人證ヲ許ス場合ノ外人證ヲ拒ムニ利益ヲ有スル當事者カ人證ニ依リテ

證據ヲ舉クルコトヲ承諾スルトキハ裁判所ハ人證ヲ拒絕シ又ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十二條 判事ハ證人ノ證據ニ因リテ拘束セラレズ其心證ニ從ヒテ判決ス

第八節 世評

第七十三條 法律上特ニ世評ニ因ル證據ヲ許ス場合ノ外或ル事實カ顯著ナルトキ法律カ其
規定ヲ此事實ニ適用ス可キコトヲ定メタル各箇ノ場合ニ於テハ此證ヲ用ユルコトヲ得
世評ニ因ル證據ニ於テハ證人ハ事實ニ付キ直接ニ自ラ知ラサルモ傳聞ニ因リ又ハ公然顯
著ナルニ因リテ知リタル所ノモノヲ陳述スルコトヲ得

第三章 間接證據

第七十四條 間接證據ナル推定ハ法律カ直接證據ナキ場合ニ於テ知レタル事實ヨリ知レサ
ル事實ニ自ラ推及シ又ハ裁判官ノ明識ト思慮トニ委ヌル結果ナリ

右第一ノ推定ヲ法律上ノ推定ト謂ヒ第二ノ推定ヲ事實ノ推定ト謂フ

第一節 法律上ノ推定

第七十五條 法律上ノ推定ニハ其證據力ト其原因トニ從ヒテ左ノ區別アリ

第一 完全ニシテ公益ニ關スルモノ

第二 完全ニシテ私益ニ關スルモノ

第三 輕易ナルモノ

第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第七十六條 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス此推定ハ之ヲ左ニ揭ク

第一 既判力

第二 取得又ハ免責ノ時効

第七十七條 既判力ハ判決主文ニ包含スルモノニ存ス

第七十八條 既判力ハ真正ト推定セラル

然レトモ確定ト爲ラサル判決ハ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ期間ニ於テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第七十九條 判決ノ確定ト爲リタルトキ同一ノ争ヲ再ヒ訴フルニ於テハ其争ハ下ノ區別ニ從ヒ既判力ニ依リテ之ヲ斥ク

第八十條 判決カ全部又ハ一分ニ付キ公ノ秩序ニ關スルトキハ既判力ニ因ル不受理ノ理由ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

此他ノ場合ニ於テハ利害關係人ヨリ其不受理ノ理由ヲ以テ對抗スルコトヲ要ス

第八十一條 既判力ニ因ル不受理ノ理由ヲ以テ新請求又ハ新答辯ニ對抗スルコトヲ得ルニ

ハ其請求又ハ答辯カ舊請求又ハ舊答辯ニ比較シテ左ノ諸件アルコトヲ要ス

第一 權利又ハ事實ニ關シ争ノ目的ノ同一ナルコト

第二 主張ノ原因ノ同一ナルコト

第三 原告、被告ノ權利上ノ資格ノ同一ナルコト

第八十二條 新請求又ハ新答辯ノ目的カ數量ニ付テノ舊請求又ハ舊答辯ノ目的ト異ナリタルトキハ新請求又ハ新答辯ノ目的ハ舊請求又ハ舊答辯ニ包含シタルモノト看做ス但舊請求又ハ舊答辯ヲ裁判セシ裁判所カ新請求又ハ新答辯ノ數量ヲ正當トスルニ於テハ之ヲ許與スル權カ有セシトキニ限ル

第八十三條 舊争カ合意又ハ遺言ノ銷除、廢罷又ハ解除ヲ目的トシタルトキハ其争ノ際存在シタルモ當事者ノ知リテ申立テサリシ他ノ同性質ノ原因ハ當事者之ヲ拋棄シタリト推定セラレ更ニ之ヲ新争ノ原因トシテ用ユルコトヲ得ス
方式ノ瑕疵アル證書ヲ其瑕疵ノ爲メ無効トスル舊争中ニ申立テサリシ他ノ方式ノ瑕疵ニ付テモ亦同シ

本條ノ適用ニ於テ銷除ノ訴ノ爲メニハ承諾ノ各種ノ瑕疵及ヒ各種ノ無能力ヲ同性質ノ原因ト看做シ又解除ノ訴ノ爲メニハ合意不履行ノ各種ノ場合ヲ同性質ノ原因ト看做ス

第八十四條 當事者カ或ハ自身ニテ同一ノ資格ヲ以テ既ニ舊訴訟ニ出テタルトキ或ハ舊訴訟ニ於テ其前主若クハ代理人ニ因リテ代表セラレタルトキ或ハ利害關係人ノ結合カ暗ニ

相互代理タルトキハ當事者ノ權利上ノ資格ハ同一ナリトス

第八十五條 刑事裁判所カ犯罪ノ所爲ノ爲メニ要求セシ民事上ノ賠償ニ付キ判決シタル場合ノ外尙ホ重罪、輕罪又ハ違警罪ノ判決ハ犯罪ニ附著スル民事上ノ利益ニ付キ既判力ヲ有ス但犯罪所爲ノ眞實、其犯罪ノ性質及ヒ被告人ノ罪責ニ付テノ裁判ニ關スルモノニ限ル

第二款 私益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第八十六條

法律上ノ推定ハ左ノ場合ニ於テハ私益ニ關スル完全ノモノタリ

第一 法律カ人ノ身分ニ關スル或ル資格ヲ付與シ又ハ拒絕スルトキ

第二 法律カ或ル所爲ヲ其規定ニ背キタルモノト推定シテ取消ストキ

第三 法律カ制規ノ公示ナキニ因リ第三者ニ知レサルモノト推定シテ或ル權利ノ行使ヲ拒絕スルトキ

此法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス

然レトモ和解ヲ許ス場合ニ於テハ此推定ハ口頭自白ヲ以テ何時ニテモ之ヲ覆ヘスコトヲ得

第三款 輕易ナル法律上ノ推定

第八十七條

上ノ法律上ノ推定ニ非サルモノハ輕易ナル法律上ノ推定ナリ此推定ニ付テハ

法律カ反對ノ證據ヲ明許セサルトキト雖モ總テ之ヲ許ス

右反對ノ證據ハ前二章ニ規定シタル條件ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ舉グルコトヲ得ス

又輕易ナル法律上ノ推定ハ次條ノ場合ニ於テハ事實ノ推定ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第二節 事實ノ推定

第八十八條

法律カ裁判所ニ其裁判ノ元素ヲ訴訟ノ事情ニ付キ採取スルコトヲ許ス特別ナル場合ノ外尙ホ裁判所ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ於テハ何等ノ直接ノ證據ヲモ舉ケサルトキト雖モ事情ヨリ生スル心證ニ從ヒテ爭ヲ決スルコトヲ得

第一部 時効

第一章 時効ノ性質及ヒ適用

第八十九條

時効ハ時ノ效力ト法律ニ定メタル其他ノ條件トヲ以テスル取得又ハ免責ノ法律上ノ推定ナリ但動産ノ瞬間時効ニ關スル第四百四十四條以下ノ規定ヲ妨ケス

第九十條 正當ナル取得又ハ免責ノ推定ハ完全ニシテ公ノ秩序ニ關スルモノトス此推定ハ

第九十六條及ヒ第六十一條ニ規定シタル如ク法律ノ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非

サレハ反對ノ證據ヲ許サス

第九十一條

取得時効ノ效力ハ占有ノ有益ニ始マリタル日ニ遡ル

免責時効ノ效力ハ債權者カ其權利ヲ第二百五條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒテ行フコ

トヲ得ヘカリシ日ニ遡ル

第九十二條 或ル訴權ノ行使ノ爲メ法律ニ定メタル期間ハ其訴權ノ性質ニ因リテ取得時効又ハ免責時効ノ一般ノ規則ニ從フ但法律カ明示又ハ默示ニテ例外ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十三條 時効ハ總テノ人ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得又時効ハ總テノ人ニ對シテ進行ス但法律ニ依リ時効停止ノ利益ヲ受クル人ニ對シテハ此限ニ在ラス

第九十四條 總テ融通物ハ時効ニ罹ルコトヲ得但法律上之ニ異ナル規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス
不融通物及ヒ讓渡スコトヲ得サル物ハ時効ニ罹ルコトヲ得ス
公有ノ財産ハ動産ト雖モ亦同シ

第九十五條 自己ノ財産ニ付キ又ハ他人ニ對シテ行フコトヲ得ル法律上ノ權能ハ幾許ノ時期間之ヲ行ハサルモ爲メニ喪失セス但法律、合意又ハ遺言ニ於テ之ニ異ナル定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十六條 判事ハ職權ヲ以テ時効ヨリ生スル請求又ハ抗辯ノ方法ヲ補足スルコトヲ得ス時効ハ其條件ノ成就シタルカ爲メ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ要ス
時効ヲ援用スル當時併セテ正當ノ取得又ハ免責ナキコトヲ追認スル者ハ時効ヲ拋棄シタリト看做ス

第九十七條 時効ヲ援用スルニ利益ヲ有スル當事者ノ總テノ承繼人ハ或ハ原告ト爲リ或ハ被告ト爲リ其當事者ノ權ニ基キテ時効ヲ援用スルコトヲ得
價權者ハ財産編第三百三十九條ニ從ヒテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第九十八條 時効ハ訴訟中何時ニテモ之ヲ援用スルコトヲ得又控訴ニ於テモ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得然レトモ上告ニ於テハ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得ス
第九十九條 年又ハ月ニ依リテ成就ス可キ時効ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

日ニ依リテ成就ス可キ時効ハ午前零時ヨリ午後十二時マテヲ一日ト爲シテ之ヲ算ス
時効ノ進行ノ始マリタル日又ハ其中斷若クハ停止ノ後再ヒ進行ノ始マリタル日ハ之ヲ算セス

最後ノ日ハ全ク經過スルコトヲ要ス

第二章 時効ノ拋棄

第一百條 時効ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス但第二百十條第二項ニ記スル如ク占有者カ將來ニ向ヒテ其占有ノ容假ヲ認ムル權利ニ妨ナシ

成就シタル時効ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得又其進行中ト雖モ既ニ經過シタル時期ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第一百十八條以下ニ記載セル相手方ノ權利ヲ追認シタル場合ニ於ケルト同シク時効ハ中斷ス

第四百一十一條 拋棄ハ默示タルコトヲ得ルト雖モ明カニ事情ヨリ顯ハルルコトヲ要ス

第四百一十二條 成就シタル時効ヲ有效ニ拋棄スルニハ取得シタリト推定セララルル權利ヲ無償ニテ讓渡シ又ハ消滅シタリト推定セララルル義務ヲ無償ニテ負擔スル能力アルコトヲ要ス

第四百一十三條 債權者ハ其權利ヲ詐害シテ債務者ノ爲シタル時効ノ拋棄ニ對シテハ財産編第二百四十條以下ニ定メタル條件及ヒ方法ニ從ヒ自己ノ名ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第三章 時効ノ中斷

第四百一十四條 經過シタル時期ノ利益カ下ニ記シタル原因ノ一ニ由リテ消滅スルトキハ時効ハ中斷ス

中斷シタル時効ハ中斷ノ原因ノ止ミシ時ヨリ更ニ進行ス

第四百一十五條 時効ノ中斷ハ自然ノモノ有リ法定ノモノ有リ

自然ノ中斷ハ取得時効ニ關シテノミ生ス

法定ノ中斷ハ取得及ヒ免責ノ時効ニ共通ナリ

第四百一十六條 動産不動産又ハ包括動産ノ占有者カ眞ノ所有者又ハ第三者ノ所爲ニ因リテ一年以上其占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷アリ
占有ヲ取戻シタルトキハ時効ハ更ニ進行ス

若シ不可抗力ニ因リテ占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷ナシ

第四百一十七條 自然ノ中斷ハ各利害關係人ノ爲メニ其効ヲ生ス

第四百一十八條 占有者カ或ル時間任意ニテ其占有ヲ止メシトキハ其占有不繼續ノ効力ハ第二百一十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第四百一十九條 法定ノ中斷ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 裁判上ノ請求

第二 勸解上ノ召喚又ハ任意出席

第三 執行文提示又ハ催告

第四 差押

第五 任意ノ追認

右ノ手續又ハ追認ノ行爲カ時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ權利ニ明カニ關係スルコトヲ要ス
第四百二十條 法定ノ中斷ハ中斷ノ所爲ヲ行ヒタル者及ヒ其承繼人ノ爲メニ非サレハ其効ヲ生セス

第四百二十一條 本訴ト附帶訴ト反訴トヲ問ハス裁判上ノ請求ハ時効ヲ中斷ス但其請求カ方式ニ於テ無効タルトキ又ハ管轄違ノ裁判所ニ之ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ右但書ノ場合ニ於テ中斷ハ初ノ請求ヲ棄却セシ判決アリタル時ヨリ二个月内ニ更ニ合式ノ訴ヲ提起セサルニ於テハ之ヲ不成立ト看做ス

第四百二十二條 中斷ハ左ノ場合ニ於テモ亦之ヲ不成立ト看做ス

第一 請求カ其基本ニ於テ棄却セラレタルトキ

第二 原告カ取下ヲ爲シタルトキ

第三 訴訟手續カ民事訴訟法ニ定メタル時間休止シテ無効ト爲リタルトキ

第百十三條 裁判上ノ請求ヨリ生スル中斷ハ訴訟ノ提起ヨリ其判決ノ確定ト爲ルマテ繼續ス

第百十四條 勸解上ノ召喚又ハ任意出席ニ因ル時効ノ中斷ハ主タル請求ハ勿論其反對ノ請

求ヨリモ生ス

召喚ノ無効ハ方式ノ瑕疵ニ因ルモ管轄違ニ因ルモ中斷ヲ妨ケス但初ノ召喚ノ無効ト爲リタルヨリ一个月内ニ更ニ合式ノ召喚ヲ爲スコトヲ要ス

合式ノ召喚ノ上勸解不調ノ場合及ヒ被告ノ闕席ノ場合ニ於テ中斷ハ一个月内ニ裁判上ノ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十五條 執行文提示ヨリ生スル中斷ハ一个年内ニ差押ヲ爲ササルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

右ノ中斷ハ方式ノ瑕疵ニ因リテ其提示ノ無効ナルトキト雖モ尙ホ成立ス但催告ヨリ生スル中斷ノ爲メ下ニ定メタル條件ヲ履行スルコトヲ要ス

第百十六條 義務履行ノ催告ハ義務ノ目的原因及ヒ債務者ヲ明カニ指示シ且六个月内ニ

裁判上又ハ勸解上ノ請求ヲ爲シタルトキニ非サレハ時効ヲ中斷セス

第百十七條 差押ヨリ生スル中斷ハ其差押ノ手續カ合式ニ終結マテ繼續シタルニ非サレハ其效力ヲ存續セス

假差押ハ裁判所ノ定メタル期間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ非サレハ時効ヲ中斷セス時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ差押ヲ爲ササルトキハ其差押ハ此者ニ告知シタル後ニ非サレハ之ニ對シテ中斷ノ效力ヲ有セス

第百十八條 任意ノ追認ヨリ生スル時効ノ中斷ハ裁判上ヨリ又ハ口頭タルト書面タルトヲ問ハス裁判外ノ行爲ヨリ生スルコトヲ得

裁判上ノ追認ハ自發ナルコト有リ又ハ判事ノ訊問ヨリ生スルコト有リ

第百十九條 追認ハ明示又ハ默示ナルコトヲ得

占有者カ占有物ニ關スル果實又ハ賠償ノ要求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ占有者カ物ニ付キ爲シタル必要若クハ有益ノ費用ノ爲メ賠償ヲ要求スルトキハ殊ニ取得時効ニ對スル默示ノ追認アリトス

債務者カ利息又ハ債務ノ辨濟ノ請求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ債務者カ提供ヲ爲シ若クハ恩惠期限ノ請求ヲ爲ストキハ殊ニ免責時効ニ對スル默示ノ追認アリトス

第百二十條 眞ノ所有者ノ權利ヲ追認シタル占有者ハ其所有者及ヒ其承繼人ニ對シ新時効ヲ再ヒ始ムル權利ヲ失ハス然レトモ占有者ハ最早其以前ノ善意ノ利益ヲ援用スルコトヲ得ス

若シ其占有者カ容假ノ占有者ト爲リタルトキハ將來ニ向ヒ何人ニ對シテモ時効ノ利益ヲ失フ但財産編第百八十五條第二項及ヒ第三項ノ場合ノ適用ヲ妨ケス

第二百一十一條 追認ニ因リテ中斷シタル免責時効ハ即時更ニ進行ス然レトモ其時効ハ最初短期ノモノタリシトキト雖モ將來ニ向ヒテハ長期時効ノ期間ニ從フ

第二百二十二條 時効ヲ中斷スル追認ハ自己ノ財産ヲ管理スル能力又ハ時効ニ罹ルコト有ル可キ財産ヲ他人ノ爲メニ管理スル權力ヲ有スル者ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ有效ナリ然レトモ無能力者又ハ委任者ノ利益ニ於ケル不動産ノ取得時効ヲ中斷スル爲メ夫、後見人又ハ代理人ノ爲シタル追認ハ不動産ノ請求ニ承服スル一般又ハ特別ノ權力アルニ非サレハ有效ナラス

第二百二十三條 時効ヲ中斷スル追認ノ所爲ニ付キ爭アルトキハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得

第二百二十四條 保證、連帶及ヒ不可分ノ場合ニ於テ各利害關係人ニ對スル追認其他ノ方法ニ因ル時効中斷ノ効力ハ債權擔保編第二十七條、第六十一條、第八十一條及ヒ第八十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第四章 時効ノ停止

第二百五條 權利ノ行使カ權利上又ハ恩惠上ノ確定若クハ不確定ノ期限ニ服シ又ハ其發生カ停止條件ニ繫ルトキハ其期限ノ滿了又ハ條件ノ成就ノ時ニ非サレハ時効ハ進行ヲ始メス

第二百二十六條 時効ハ物權又ハ人權ニシテ其成立、廣狹又ハ行使カ相續ニ繫ルモノニ對シ

テハ其相續後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二十七條 遺言又ハ前主ノ合意ニ對シ相續人ニ屬スル銷除訴權又ハ抗辯ノ時効ハ其遺言又ハ合意ヲ相續人ニ對シテ援用シ又ハ其相續人ヲ害スル權利行使ノ基礎トシテ用非タル後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二十八條 上ノ場合ニ於テ時効ハ第三所持者ニ對シテ停止セズ但所有權ノ取得時効又ハ抵當ノ消滅時効ヲ中斷セント欲スル利害關係人ニ於テ自己ノ未定ノ權利ノ追認證書ヲ得ント請求スルコト又ハ裁判上其權利ヲ單ニ追認セシムルコトヲ妨ケス

第二十九條 時効カ其進行中ニ停止セラルルトキハ既ニ經過シタル時間ハ其時効ノ更ニ進行ヲ始ムル時ニ之ヲ通算ス

第三十條 時効ハ法律ニ定メタル人ノ利益ニ於ケルニ非サレハ停止セズ

第三十一條 期間五個年以下ノ時効ハ成年者ニ對スル如ク未成年者及ヒ禁治產者ニ對シテ進行ス但後見人カ此等ノ者ノ權利ヲ行フコトヲ怠リ又ハ正當ノ原因ナクシテ此權利ヲ覺知セサル場合ニ於テハ此等ノ者ヨリ其後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

五個年ヲ超ユル時効ニ關シテハ其期間ハ成年ニ達シタル未成年者又ハ精神ノ回復シタル禁治產者ヲシテ常ニ其權利ヲ行フ猶豫ヲ得セシムル爲メ最後ノ一个年停止ス

第三十二條 時効ハ婦ニ對シ第三者ノ利益ニ於テ進行ス但夫カ婦ノ爲メニ管理スル財産ニ關シ其夫ノ方ニ懈怠アル場合ニ於テハ婦ヨリ夫ニ對スル求償權ヲ妨ケス

然レトモ法律ニ規定シタル場合ニ於テハ時効ハ婦ノ爲メ最後ノ一今年停止ス

第三百三十三條 前二條ノ規定ハ無能力者自身ニテ爲シタル行爲ノ銷除訴權ノ時効停止ニ關

シ財産編第五百四十五條及ヒ第五百四十六條ニ定メタルモノヲ妨ケス

第三百三十四條 配偶者ノ一人ヨリ他ノ一人ニ對シテ行フ可キ權利ニ關シテハ婚姻中ト雖モ時効ハ進行ス

然レトモ其時効ハ最後ノ一今年停止ス又一今年以下ノ時効ニ關シテハ其最後ノ半期間停止ス

第四百四十四條ノ場合ニ於テハ動産回復ノ期間ハ三ヶ月トス

第三百三十五條 時効ハ財産ノ管理人ト其管理ヲ受クル者トノ間ニ於テ其保存スルコトヲ任セラレタル權利ニ付テハ管理人ノ爲メニ停止ス

時効ハ管理カ止ミシ以後ニ非サレハ更ニ進行セス又第四百四十四條ノ場合ニ於ケル動産ノ時効ニ關シテハ三ヶ月ヲ以テスルニ非サレハ成就セス

第三百三十六條 上ニ定メサル場合ニ於テ時効ノ期間ノ滿了スル時ニ當リ有權者カ交通ノ塞カリタルニ因リ又ハ地方ノ裁判事務ノ停止セラレタルニ因リテ其權利ノ效用ヲ致サシメ又ハ時効ヲ中斷スル爲メ手續ヲ爲スコト能ハサリシ時ハ有權者其妨碍ノ止ム後直チニ請求ヲ爲スニ於テハ其失權ヲ免カルルコトヲ得

右ノ規定ハ陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合

ニ於テハ其利益ノ爲メ之ヲ適用ス

第三百三十七條 物權又ハ人權ノ不可分ヨリ生スル時効ノ停止ハ財産編第二百九十一條、第四百四十六條及ヒ債權擔保編第八十九條第二項ニ於テ之ヲ規定ス

第五章 不動産ノ取得時効

第三百三十八條 不動産ノ取得時効ニ付テハ所有者ノ名義ニテ占有シ其占有ハ繼續シテ中斷ナク且平穩公然ニシテ下ニ定メタル繼續期間アルコトヲ要ス

財産編第八十三條及ヒ第八十五條ニ定メタル如キ強暴、隱密又ハ容假ノ占有ハ時効ヲ生セス

第三百三十九條 占有者カ時効ニ因リテ取得セントスル物ニ付キ或ル長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲スコトヲ任意ニテ止メシトキハ其占有ハ不繼續ニシテ時効ヲ生セス

占有者カ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ストキハ其以前ノ占有ノ時間ハ占有者ノ爲メニ之ヲ算セス
第四百十條 占有カ上ニ定メタル條件ノ外財産編第八十一條ニ記載シタル如キ正權原ニ基因シ且財産編第八十二條ニ從ヒテ善意ナルトキハ占有者ハ不動産ノ所在地ト時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セス十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス
占有者カ正權原ヲ證スルコトヲ得ス又ハ之ヲ證スルモ財産編第八十七條ニ規定シタル如ク其惡意カ證セララルトキハ取得時効ノ期間ハ三十年トス

第四百十一條 性質上登記ヲ爲スコキ正權原ニ基因シタル時効ハ其證書ニ依リ登記ヲ爲シ

タル後ニ非サレハ之ヲ算セス

四百五十

第四百十二條 方式上無効タリ又ハ裁判上取消サレタル權原ハ時効ノ爲メニ有益ナラス

第四百十三條 前主ノ占有ヲ其相續人及ヒ包括若クハ特定ノ承繼人ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スルコトハ財産編第九十二條ニ於テ之ヲ規定ス

第六章 動産ノ取得時効

第四百十四條 正權原且善意ニテ有體動産物ノ占有ヲ取得スル者ハ即時ニ時効ノ利益ヲ得但第四百二十四條及ヒ第三百二十五條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

此場合ニ於テ反對カ證セラレサルトキハ占有者ハ正權原且善意ニテ占有スルモノトノ推定ヲ受ク

第四百十五條 動産物ノ占有者カ正權原ヲ有シ且善意ナル場合ニ於テモ其物カ所有者ノ盜取セラレタルモノ又ハ遺失シタルモノナルトキハ其所有者ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二個年間ハ占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但占有者カ其物ヲ有償ニテ受ケタルトキハ其讓渡人ニ對スル求償ヲ妨ケス

背信ニ因リテ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ得タル物ニハ本條ヲ適用セスシテ前條ノ規定ニ從フ第四百十六條 盜取セラレ又ハ遺失シタル物ヲ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ此類ノ物ノ商人若クハ古物商人ヨリ善意ニテ買受ケタル者アルトキハ所有者ハ其買受代價ヲ辨償スルニ非サレハ回復ヲ爲スコトヲ得ス

此場合ニ於テハ右ノ代價ニ付キ所有者ハ賣主ニ對シ又賣主ハ讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ盜取者又ハ拾得者ニ遡ル

第四百十七條 無記名債權證書ヲ盜取セラレ又ハ遺失シタル場合ニ於テ其證書回復ノ期間及ヒ條件ハ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十八條 上ノ場合ニ於テ回復者カ占有ノ無權原タリ又ハ惡意タルコトヲ證スルトキハ時効ハ三十年ヲ經過スルニ非サレハ成就セス

第四百十九條 上ノ規定ハ用方ニ因リテ不動産ト爲リタル動産カ其附著シタル不動産ヨリ分離セラレタル場合ニ於テハ其動産ニ之ヲ適用ス

上ノ規定ハ財産編第十二條ニ從ヒ用方ニ因ル動産ニ之ヲ適用セス但其物カ土地ヨリ分離シタルトキハ此限ニ在ラス

又上ノ規定ハ記名債權ニモ包括動産ニモ之ヲ適用セス但此等ノ物ニ關スル時効ノ期間ハ第四百二十八條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒ不動産ニ關スルモノト同一ナリ

第七章 免責時効

第四百五十條 義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十年間之ヲ行ハサルニ因リテ成就ス但法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權ヲ時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十一條 債務ノ元本カ年賦ニテ辨濟ス可キモノタルトキハ利息ヲ包含スルト否トヲ

民法 證據編

四百五十一

問ハス時効ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時ヨリ各別ニ之ヲ算ス
第五百十二條 債權カ無期又ハ終身ノ年金權ナルトキト雖モ其時効ハ證書ノ日附ヨリ三十
今年ヲ以テ成就ス

然レトモ右ノ日附ヨリ二十八今年ノ後ニ至リ債權者ハ債務者ニ對シ時効ヲ中斷スル爲メ
雙方ノ費用ヲ以テ其權利ノ追認證書ヲ得ント要求スルコトヲ得
若シ債務者右ノ要求ヲ拒絕シ債權者裁判上自己ノ權利ヲ追認セシムル必要アルトキハ其
費用ハ全ク債務者ノ負擔タリ

第五百十三條 動産質又ハ不動産質ノ返還ヲ得ル爲メノ對人訴權ハ適法ナル方法ニ因リテ
債務ノ消滅シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第八章 特別ノ時効

第五百十四條 人ノ身分ニ關スル訴權ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ繋ラシムル場合ニ非
サレハ時効ニ罹ラス

第五百十五條 相續人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ受贈者ノ分限ヲシテ效用ヲ致サシムル
爲メノ遺産請求ノ訴權ハ相續人又ハ包括權原ノ受贈者若クハ受遺者ノ權原ニテ占有スル
者ニ對シテハ相續ノ時ヨリ三十今年ヲ經過スルニ非サレハ時効ニ罹ラス

第五百十六條 免責時効ハ左ニ掲クル諸件ノ辨濟ノ訴權ニ對シテハ五今年トス

第一 明確ナル金額ノ填補又ハ遲延ノ利息

第二 無期又ハ終身ノ年金權ノ年金

第三 養料又ハ恩給ノ一期ノ支拂金

第四 借家賃又ハ借地賃

第五 果實又ハ日用品ノ每期ノ給與額

第六 教師、番頭、手代、使用人、乳母其他ノ雇人ノ謝金又ハ給料ニシテ一今年毎ニ定メラ
レタルモノ

此他一般ニ一今年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務
ニ付テモ亦同シ但其辨濟ノ方法如何ニ拘ハラヌ且下ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス
第五百十七條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ二今年トス

第一 醫師、產婆、藥劑者ノ治術、世話及ヒ調劑ニ關スル其訴權

第二 前條第六號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一今年ヨリ短
ク一今年ヨリ長キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第三 技師、工匠、測量師、製圖師ノ經畫、意見及ヒ工事ニ關スル其訴權

第四 不動産ニ關スル築造、地均其他ノ工作ニ付テノ請負人ノ訴權

第五百十八條 公證人、辯護士、執達吏其他ノ公吏カ職務ニ關シテ受ク可キモノニ付テノ其
訴權ニ對スル時効ハ二今年トス

此場合ニ於テ時効ハ右各人ノ債權ヲ生シシメタル行爲又ハ訴訟ノ終了後ニ非サレハ進行

ヲ始メス

四百五十四

然レトモ終了セサル事件ニ關シテハ右各人ハ五年餘ニ遡ル行爲ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ得ス

此規定ハ右各人カ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金及ヒ支出金ニ之ヲ適用ス

第百五十九條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ一年トス

第一 非商人ニ爲シタル供給ニ關スル日用品、衣服其他動產物ノ卸賣商人又ハ小賣商人ノ訴權但商人又ハ工業人ニ爲シタル供給ト雖モ其者ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ニ於テハ亦同シ

第二 右ノ區別ヲ以テ注文者ノ材料又ハ動產物ニ付キ仕事ヲ爲ス居職ノ職工又ハ製造人ノ訴權

第三 生徒又ハ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校長、塾主、師匠又ハ親方ノ訴權

第百六十條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ六個月トス

第一 第百五十六條第六號及ヒ第百五十七條第二號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一個月又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權
第二 旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル宿泊料、飲食料及ヒ消費物ニ關スル其訴權
第三 日雇、月雇ノ職工又ハ勞力者ノ給料及ヒ其仕事ニ際シ此等ノ者ノ爲シタル些少

ノ供給ニ關スル其訴權

第百六十一條 前五條ニ規定シタル時効ハ現實ニ辨濟セサリシコトヲ自白シタル債務者之ヲ援用スルコトヲ得ス

第百六十二條 裁判所書記、辯護士ハ裁判ノ時ヨリ公證人ハ證書調製ノ時ヨリ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ノ後ハ其職務ノ事件ニ關シテ交付セラレタル書類ニ付キ責任ヲ免カレ其書類返還ノ證ヲ提示スル義務ヲ免除セラル

第百六十三條 本章ニ規定シタル時効ハ當事者ノ間ニ明確ナル計算書、數額ヲ記載シタル債務ノ追認書又ハ債務者ニ對スル判決書アルトキハ之ヲ適用スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ時効ハ二十年トス

附則

第百六十四條 本法實施ノ當時ニ於テ進行中ナル時効ハ上ニ定メタル條件、禁止、中斷及ヒ停止ニ從フ

其期間ニ關シテハ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合ニ於テハ占有者又ハ債務者ハ本法實施ノ時ヨリ算シテ舊時効ノ經過ス可キ殘期カ新時効ノ期間ヨリ短キトキハ舊時効ヲ利スルコトヲ得

新時効ヨリ一層短キ期間ノ舊時効ニ關シテハ其期間ハ本法ニ定メタルモノニ等シキ期間ニ達スル様之ヲ延長ス可シ

○土地收用法

四百五十六

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
内務大臣 伯爵松方正義

法律第十九號

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

- 一 國防其他兵事ニ要スル土地
- 二 政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地
- 三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ堀鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償ス

民法附錄

四百五十七

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及収用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地収用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

一 収用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目

二 収用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又

ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ

三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名

四 収用又ハ使用ノ時期

五 損失補償金額並其内譯但収用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地収用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 収用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地収用審査委員會ヲ開クヘシ

土地収用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地収用又ハ使用ノ區域収用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシム

ヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價值ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁塙柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十二條

土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限り各別ニ之ヲ補償スヘシ
書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ俟テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人ノ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノカ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行

後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章 土地收用審査委員

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス
會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル

鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲ササルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號達公用地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○土地收用法協議會規則

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵西鄉從道

法律第五十四號

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添へ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日前前條

民法附錄

ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ
協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ
先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル
地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞ケモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サ、ル者アルトキハ工事ノ仕様及
補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及
所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係
人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土
地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

○市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件

朕市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年二月十二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法 大臣伯爵山田顯義

法律第十號

市町村制實施以前區戶長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町
村長ニ對スル行政訴訟ハ從前郡區戶長ニ對スル事件ニ準シ始審裁判所ニ於テ取扱フヘシ但
明治二十二年法律第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス
土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行後受理シタルモノハ從前
ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

○供託規則

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏 大臣伯爵松方正義

勅令第四百四十五號

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管
民法附錄

第二條 供託シタル金銭ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

○供託物取扱規程

大藏省令第三十九號
明治二十三年十二月十五日

本年勅令第四百四十五號供託規則ニ依リ寄託スル金銭有價證券取扱規程左ノ通相定ム
供託物取扱規程

第一條 供託物ノ受渡及保管ハ東京府内ハ大藏省預金局其他ノ各地ハ本支金庫ニ於テ之レヲ取扱フヘシ

第二條 供託物ヲ寄託セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ調製捺印ノ上其寄託ヲ供託取扱所東京府内ハ大藏省預金局其他ノ各地ハ本支金庫以下做之ニ請求スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名
官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名官氏名

第二 金銭ハ其金額
有價證券ハ其種類記號番號券面金額枚數

但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添附スヘシ

第三 供託ノ事由
但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲナサントスルトキハ尙其件名及其裁判所名ヲ記スヘシ

第四 年月日
第三條 供託取扱所ニ於テ供託書ヲ受ケタルトキハ其式ニ違ハサルヲ認メ其物件ヲ受領シ供託書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ供託者ニ交付スヘシ

第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄託スル事ヲ得
前項ノ場合ニ於テ金銭ハ寄託スヘキ供託取扱所所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送金手形若クハ爲替券等ヲ以テ寄託スルコトヲ得

- 第五條 送金手形若クハ爲替券ヲ以テ金錢ヲ寄託シタルトキハ供託取扱所ハ其現金ヲ領收シタル後チニアラサレハ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナサハルヘシ
- 第六條 供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書各二通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ差出スヘシ
- 第七條 供託取扱所ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナシ其一通ヲ舊受領證ト引替ニ交付スヘシ
- 第八條 寄託シタル有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ有權者ヨリ第三號書式ノ請求書二通ニ委任狀ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ
- 第九條 供託取扱所ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利子又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ代供託物トシテ之ヲ預リ請求書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ請求者ニ交付スヘシ
- 第十條 供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ請求スヘシ但全部拂戻ノトキハ受領證ニ式ノ如ク與書ヲナシ幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受取證ヲ差出スヘシ
- 第十一條 裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂戻ヲ要スルトキハ裁判所ハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂戻證ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ

- 第十二條 前條ノ拂戻證ヲ受ケタル者ハ其末尾ニ式ノ如ク記載捺印シ之ヲ供託取扱所ヘ差出シ其拂戻ヲ受クヘシ
- 第十三條 供託取扱所ニ於テ供託物ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ三日(休日ヲ除ク)以内ニ拂戻スヘシ
- 供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ受領證ノ末尾ニ内渡ノ旨記載捺印シ其供託物ト共ニ之ヲ返付スヘシ
- 第十四條 供託規則ニ依リ仕拂フヘキ利子ハ元金仕拂請求ノ際第八號書式ノ利子請求書ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ
- 第十五條 前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ大藏省預金局ニ於テ供託金利子證券ヲ調製シ之ヲ拂戻請求者ヘ送付スヘシ
- 第十六條 前條ノ利子證券ヲ受ケタル者ハ其證券ニ記載アル大藏省預金局又ハ本支金庫ヘ差出シ之レト引替ニ現金ヲ受取ルヘシ

(「内及印章ハ朱」)

第一號書式 用紙寸法美濃板

供託書

府縣郡市町村番地

供託者 何

某

「官吏ノ公務上取扱ニ係ル者ハ官廳名及官氏

名ヲ記載スルモノトス代人ヲ用フルトキハ其任所氏名ヲ書加フルモノトス

一金何圓也

一何分利附何公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番
第何番ヨリ
第何番マテ
何枚

一何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ
何枚

〔有價證券ノ種類其他多數ニテ本書ニ認メ難キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添附スヘシ〕
事由〔裁判中ニ係ルモノハ其件名及裁判所名ヲモ記載スルモノトス〕

前書ノ物件何地ニ於テ寄託致度此段請求候也

〔分割ヲ要スルトキ差出ス供託書ハ前書ノ物件ノ下ニ何年何月何日何第何號受領證ノ内分割ノ上ノ文字ヲ加フ〕
年月日

預金局長氏名殿

何第何號

右受領ス

〔年月日〕

大藏省預金局長氏名〔印〕

〔各地ハ〕

大藏省預金局

大藏省預金局何地供託取扱所保管之證

〔取扱方〕

何地何金庫〔印〕

奥書ノ式

前書物件正ニ受取候也

年月日

府縣郡市町村番地

何 某〔印〕

第二號書式分割請求書 用紙寸法美濃板半折

分割請求書

今般何々ノ事由ニ據リ何第何號受領證ノ物件別紙供託書ノ通リ分割相成度此段請求候也

府縣郡市町村番地

何 某〔印〕

年月日

預金局長氏名殿

第二號書式償還金利子又ハ配當金受取方請求書 用紙寸法美濃板

償還金〔又ハ〕利子〔又ハ〕配當金受取方請求書

府縣郡市町村番地

有權者 何 某

〔官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名及官氏名ヲ記載スルモノトス〕

〔代人ヲ用フルトキハ其任所氏名ヲ書加フルモノトス〕

一金何圓也

何分利附何公債證書(又ハ)何銀行(又ハ)何會社株券何圓何年何月(又ハ)何期渡利子(又ハ)配當金(又ハ)何年何月償還金何年何月何日何號何號受領證何某供託ノ分
受取場所何地

前書金額受取相成度此段請求候也

年 月 日

預金局長氏名殿

「何第何號」

「右受領ス」

「年 月 日」

「大藏省預金局氏名」

「各地」

「大藏省預金局」

大藏省預金局何地供託之取所保管

「取扱方」

「何地何金庫」

府縣郡市町村番地

何 某圓

年 月 日

「奥書ノ式」
前書物件正ニ受取候也

第四號書式拂戻請求書 用紙寸法美濃板半折

拂戻請求書

今般何々ノ申由ニ據リ何第何號受領證ノ物件拂戻相成度此段請求候也

「幾分ノ拂戻ヲ請求スルトキハ第五號書式ノ受取證ヲ添附シ」何第何號受領證ノ「下ニ」内別紙受取證ノ「ノ」文字ヲ加フヘシ」

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某圓

預金局長氏名殿

第五號書式幾分拂戻ノ受取證 用紙寸法美濃板

供託物受取證

何年何月何日何第何號受領證ノ内

一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

「又ハ」何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

一何銀行(又ハ)何會社株券何圓券

「又ハ」第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

「有價證券ノ種類多數ニテ本紙ニ認メ難キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添附スヘシ」
前書物件正ニ受取候也

府縣郡市町村番地

民法附録

年月日

四百七十六
何 某園

預金局長氏名殿

第六號書式分割拂戻請求書 用紙寸法美濃板
分割拂戻請求書

府縣郡市町村番地
供託者 何 某

何年何月何日何第何號受領證
一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

「又ハ」何第何番
第何番ヨリ 何枚

一何銀行「又ハ」何會社株券何圓券

「又ハ」第何番
第何番ヨリ 何枚

「有價證券ノ種類多數ニテ本書ニ認メ難キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添附スヘシ」
内

金何圓也

府縣郡市町村番地
受取人 何 某

何分利附公債證書何圓券

「又ハ」何第何番
第何番ヨリ 何枚

府縣郡市町村番地
受取人 何 某

何銀行「又ハ」何會社株券何圓券

「又ハ」第何番
第何番ヨリ 何枚

府縣郡市町村番地
受取人 何 某

事由

前書内譯ノ通り拂戻證交附候ニ付分割拂戻相成度此段請求候也

官廳名

年月日

官 氏 名 園

預金局長氏名殿

第七號書式拂戻證 用紙適宜

拂戻證

府縣郡市町村番地
供託者 何 某

何年何月何日何第何號受領證ノ内
一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

「又ハ」何第何番
第何番ヨリ 何枚

一何銀行「又ハ」何會社株券何圓券
「又ハ」第何番
第何番ヨリ 何枚

民法附録

四百七十七

前書物件此證引替受取人へ拂戻ヲ要ス

右受取人

府縣郡市町村番地 何 某

四百七十八

年月日

官廳名

官 氏 名 圖

預金局長氏名殿

「各地ハ」

「何地何金庫」

前書物件正ニ領收候也

年月日

府縣郡市町村番地

何

某圖

第八號書式利子請求書 用紙寸法美濃半板

利子請求書

何年何月何日何第何號受領證何某ヨリ寄託シタル供託金何圓ニ對スル利子仕拂相成度此段請求候也

「代供託又ハ附屬供託物アルトキハ何年何月何日附受領證ニ於ケル代供託又ハ附屬供託金何圓ニ對スル利子ト番加フヘン」

年月日

府縣郡市町村番地

何

某圖

預金局長氏名殿

○供託物取扱順序

大藏省訓令第百五十五號
明治二十三年十二月二十八日

供託物取扱順序左ノ通り相定ム

金庫出納役

供託物取扱順序

- 第一條 各地金庫ニ於テ供託物寄託ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ニ其物件ヲ照查シ式ノ如ク記載證印シ二通ノ間ニ割印ノ上一通ハ供託者ニ交附シ一通ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局ヘ送附スヘシ
- 第二條 各地金庫ニ於テ銀行送金手形又ハ郵便爲替券ヲ以テ寄託ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ引替ヘ前條ノ手續ヲナスヘシ但現金不渡ノトキハ渡シ先キノ證明ヲ受ケ供託書ト共ニ之レヲ返附スヘシ
- 第三條 各地金庫ニ於テ分割ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ヲ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ照合シ更ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ但最前ノ受領證ニハ式(規程第一)ノ如ク記入ノ上金庫ニ存置シ分割請求書ハ預金局ヘ送附スヘシ
- 第四條 各地金庫ニ於テ寄託ニ係ル有價證券ノ償還金利子又ハ配當金受取方ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書及委任狀ニ其證券又ハ利賦札ヲ添ヘ預金局ヘ送附スヘシ但其地ニ於テ受取ルヘキモノハ證券又ハ利賦札ヲ添附スルニ及ハス
- 第五條 預金局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ金員領收ノ手續ヲ了シ請求書ニ式ノ如

民法附録

四百七十九

ク記載證印ノ上其金庫へ送附シ金庫ニ於テハ式(規程第三號丙印)ノ如ク附記證印シ請求人へ交附スヘシ

第六條 前條償還金利子又ハ配當金ノ内各地ニ於テ受取方ヲ要スルモノハ預金局長ヨリ之レヲ其地ノ金庫へ委託スヘシ

第七條 各地金庫ニ於テ前條ノ委託ヲ受ケタルトキハ其銀行又ハ會社ニ就キ金員ヲ領收シ直ニ第一號ノ報告書ヲ預金局へ送附スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第四條ノ請求書ニ式ノ如ク記載證印ノ上之レヲ其金庫へ送附シ金庫ニ於テハ式ノ如ク附記證印シ請求人へ交附スヘシ

第九條 各地金庫ニ於テ供託物全部拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證及請求書ニ式(規程第一號式乙印同第三號式甲印及同第四號式甲印)ノ如ク記入證印ノ上其物件ヲ拂戻シ受領證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局へ送附スヘシ

第十條 各地金庫ニ於テ供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ式(規程第一號式丙印同第三號式乙印)ノ如ク記載證印ノ上其物件ト共ニ返附シ受取證及請求書ニ式(規程第五號式甲印同第四號式乙印)ノ如ク記載シ受取證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局へ送附スヘシ

第十一條 各地金庫ニ於テ分割拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證ヲ請求書ニ照合シ式(規程第七號式甲印同第六號式甲印)ノ如ク記入ノ上其物件ヲ拂戻シ拂戻證ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局へ送附スヘシ

第十二條 各地金庫ニ於テ供託金利子仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其請求書ヲ預金局へ送附スヘシ

第十三條 預金局ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ利子證券ヲ調製シ之レヲ請求人へ送附スルト同時ニ其報知書ヲ其金庫へ送附スヘシ

第十四條 各地金庫ニ於テ供託金利子拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ報知書ニ照合シ報知書及利子證券ニ第二號書式ノ如ク記入シ其金員ヲ仕拂ヒ利子證券ハ金庫ニ存置シ報知書ハ預金局へ送附スヘシ

第十五條 各地金庫ニ於テ毎日受ケ入レタル供託金ハ預金受渡事務順序第二十八條ニ據リ其仕拂金ハ同第二十九條ニ據リ取扱フヘシ

第十六條 各地金庫ニ於テ受ケ入レタル供託金償還金利子及配當金ハ預金受渡事務順序第三十一條ニ據リ預金受入簿ニ記入シ其仕拂金ハ同第三十二條ニ據リ預金拂戻簿同第三十三條ニ據リ預金拂戻豫算額差引簿ニ記入スヘシ

第十七條 各地金庫ニ於テ寄託ヲ受ケタル有價證券ハ之レヲ其金庫ニ保管シ第三號書式ノ有價證券受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ記入スヘシ

第十八條 各地金庫ニ於テ有價證券受拂簿ニ據リ第四號書式ノ有價證券受拂報告表ヲ調製シ支金庫ニ於テハ毎日日本金庫(中央金庫ニ屬スル)へ本金庫ニ於テハ每五十ノ日(月末大ノ日若クハ二十九日)支金庫ヨリ送附スル所ノ報告表ヲ添ヘ預金局へ送附スヘシ

支金庫ニ於テハ毎日日本金庫(中央金庫ニ屬スル)へ本金庫ニ於テハ每五十ノ日(月末大ノ日若クハ二十九日)支金庫ヨリ送附スル所ノ報告表ヲ添ヘ預金局へ送附スヘシ

第十九條 供託物ニ關スル書類ノ記號ハ預金ノ記號ヲ用ヒ其番號ハ預金及保管金ト區分シ更ニ番號ヲ附スヘシ但報告表ニハ記號ノ上ニ供託ノ文字ヲ附スヘシ (丙及印章ハ朱)

規程第一號式 供託書

府縣郡市町村番地 供託者 何 某

一金何圓也

一何分利附何公債證書何圓券

何第何番
何第何番ヨリ
何第何番マテ

何枚

一何銀行(又ハ)何會社株券何圓券(又ハ)第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

事由

前書ノ物件何地ニ於テ寄託致度此段請求候也

年月日

預金局長氏名殿

右 何 某

割印

何第何號

右受領ス

年月日

大藏省預金局

大藏省預金局
何地供託
之取扱所保管

前書物件正ニ受取候也

年月日

府縣郡市町村番地

何 某

〔甲〕何年月何日
分割

何地何金庫

〔乙〕何年月何日
拂戻濟

何地何金庫

〔丙〕

一金何圓也

多數ニテ除白ニ認メ難キトキ
紙ヲナスヘシ

一何分利附何公債證書何圓券

何第何番ヨリ
何枚

一何銀行(又ハ)何會社株券何圓券

第何番マテ
第何番ヨリ
何枚

右請求ニ依リ内拂候也

何地何金庫

規程第二號式

償還金(又ハ)利子(又ハ)配當金受取方請求書

府縣郡市町村番地

有權者 何 某

一金何圓也

何分利附何公債證書(又ハ)何銀行(又ハ)何會社株券何圓何年月日(又ハ)何期渡利子(又ハ)配當金(又ハ)何

民法附錄

年何月何日償還金

何年何月何日何第何號受領證何其供託ノ分
受取場所何地

前書金額受取相成度此段請求候也

年 月 日

預金局長氏名殿

右 何 某

「何第何號」

「右受領ス」

「年 月 日」

「大藏省預金局長氏名」

「(丙)取扱方」

「何地何金庫」

「與書式」

前書金員正ニ受取候也

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某

「(甲)」「何年何月何日
拂戻濟」

「何地何金庫」

「(乙)」「金何圓也」
「右請求ニ依リ内拂候也」

「年 月 日」

「何地何金庫」

規程第四號式

拂戻請求書

今般何々ノ事由ニ據リ第何號受領證ノ物件拂戻相成度此段請求候也

「幾分ノ拂戻ヲ請求スルトキハ第五號書式ノ受取證ヲ添附シ」何
第何號受領證ノ」下ニ内別紙受取證ノ」ノ文字ヲ加フヘシ」

年 月 日

府縣郡市町村番地

何 某

預金局長氏名殿

「何地何金庫」

「甲」何年何月何日
拂戻濟」

「一」金何圓也」

「一」何分利附公債證書何圓券」

「(多數ニテ餘白ニ認メ難キトキハ繼紙ヲナスヘシ)」「何第何番ヨリ」何枚」
「第何番マテ」

「(乙)」「一」何銀行(又ハ)何會社株券何圓券」

「第何番ヨリ」何枚」
「第何番マテ」

「右請求ニ據リ内拂候也」

「何地何金庫」

規程第五號式

供託物受取證

何年何月何日第何號受領證

一 金何圓也

一 何分利附公債證書何圓券

「(又ハ)」「何第何番ヨリ」
「第何番マテ」

何枚

民法附錄

一何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番
前書物件正ニ受取候也

府縣郡市町村番地

年月日

預金局長氏名殿

何

某圓

〔甲〕何年何月何日
拂戻濟

何地何金庫圓

規程第六號式

分割拂戻請求書

府縣郡市町村番地
供託者 何

某

何年何月何日何第何號受領證
一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

一何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

内

〔甲〕〔割印〕何年何月何日何第何號受領證
何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

府縣郡市町村番地
受取人 何

某

府縣郡市町村番地
受取人 何

某

何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

府縣郡市町村番地
受取人 何

某

事由

前書内譯ノ通り拂戻證交附候ニ付分割拂戻相成度此段請求候也

官廳名

年月日

官氏名圓

預金局長氏名殿

規程第七號式

拂戻書

府縣郡市町村番地
供託者 何

某

何年何月何日何第何號受領證ノ内
一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

一何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

府縣郡市町村番地

右受取人 何

某

前書物件此證引替受取人ハ拂戻ヲ要ス

民法附錄

四百八十八

官廳名

官氏名

年月日
何地何金庫
前書物件正三額收帳也

府縣郡市町村番地
何 某
何地何金庫

年月日
「(甲)」
「刺印」
「携反書」

第一號書式

償還金(又ハ)利子(又ハ)配當金受取済報告書

一金何圓也

何分利附公債證券(又ハ)何銀行(又ハ)何會社株券何圓何年何月何期満期子(又ハ)配當金(又ハ)何年何月何日
償還金
前書金額御委託ニ依リ正ニ受取候此段及報告候也

年月日

預金局長氏名殿

何地何金庫

第二號書式

供託金利子証券

第何號

一金何圓也

「何年何月何日」
「何地何金庫」
仕様書
受取人 何 某

現金仕場所 何地何金庫

右ノ利子此証券引替ニ現金仕拂フヘシ

年月日

大藏省預金局長氏名

供託金利子証券

第何號

一金何圓也

「何年何月何日」
「何地何金庫」
仕様書
受取人 何 某

右利子証券本日發行ス

年月日

何地何金庫

大藏省預金局長氏名

第三號書式

要	摘	戻項	掛金
		0	
	内掛戻	0	

民法附錄

四百八十九

有價証券受拂簿

年月日	番記號	姓名	住所	種類	証券番記號	枚數	入金
何	何	何第何番	何 某 郡市町 村番地	何分利附公債 証券何圓券	何第何番	0	0
何	何	何第何番	何 某 郡市町 村番地	何銀行株券何 圓券	第何番	0	0
何	何	何第何番	何 某 郡市町 村番地	何分利附公債 証券何圓券	何第何番	0	
何	何	何第何番 ノ内	何 某 郡市町 村番地	何銀行株券何 圓券	第何番	0	

第四號書式

何年何月何日ヨリ 何月何日ニ至ル(支金庫ニ於テハ[何年何
有價証券受拂報告表 [月何日]ト記載スヘシ)

第何號

民法附録

年月日	番記號	姓名	種類	証券番記號	枚數	受入	拂戻
何	何	何第何番	何分利付公債 証券何圓券	何第何番	0	0	0

何地何金庫圓

○增價競賣法

朕增價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年十月三日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第九十二號

增價競賣法

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ增價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタルヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ
前項ノ手續ヲ爲サハルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲クル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百四十三條第二號乃至第五號ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許否ニ付

テノ決定ヲ爲ス可シ

否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ参加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期間ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知リタルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條 左ニ掲クル者ヲ增價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一 競賣要求者

第二 債務者

第三 第三所持者

第四 抵當債權者

第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保ヲ十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲クル諸件ノ外增價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スルコトヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條、第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至

第八號第六百七十三條第六百七十四條第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト言渡ス可シ

第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トヲ問ハス競落代價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルコト無シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命ス可シ
前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス

第十條 増價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ増價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

○財產委棄法

朕財產委棄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月三日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第九十四號

財產委棄法

第一條 無資力ナル債務者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ差押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマテハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對シ自己ノ財產ノ委棄ヲ其住所地ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債務者ハ總債權者ノ氏名及ヒ分限ト各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トヲ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財產ノ委棄ハ協諧契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財產ノ委棄ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
此他財產ノ委棄ニ付テハ家資分散ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

○裁判上代位法

朕裁判上代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月三日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第九十三號

民法附錄

裁判上代位法

四百九十六

第一條 民法財産編第三百二十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル訴權ヲ行ハントスル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス
 債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スコトヲ得ス
 第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セサルトキハ債權者ハ債務者ノ住所地ノ裁判所ニ代位ノ申請ヲ爲スコトヲ得但催告書ノ謄本ヲ差出ス可シ
 第三條 代位ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 債權者債務者被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示
 第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示
 第三 訴訟物ノ表示
 第四條 裁判所ハ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セスシテ決定ヲ爲スコトヲ得
 右申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○辨濟提供規則

朕辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月八日

司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第二百十七號

辨濟提供規則

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ
 第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金錢ナルトキハ其種類員數ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定量物ナルトキハ其種類品質數量ヲ記ス可シ
 第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス
 第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金二十錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

○登記法

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年八月十一日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
 内務大臣 伯爵山縣有朋
 大藏大臣 伯爵松方正義
 司法大臣 伯爵山田顯義

民法附錄

四百九十七

法律第一號

四百九十八

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ(二十年七月十五日法律第一號ヲ以テ本條改正)
農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記ス可キ概目左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數、地券面ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪雜作ノ有無

第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機及汽鐘ノ種類、端船其他必要ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要ノ所屬品

第五 登記ノ事由

第六 金額

第七 質入書入ハ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書又ハ官廳ノ照會書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス(二十年七月十五日法律第一號ヲ以テ本條改正)

第十一條 登記ノ謄本又ハ拔書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ(出頭シテ)之ヲ請求スルコトヲ得(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ(出頭シテ)ノ四字ヲ別除ス)

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第二章 賣買讓與

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ
證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應シ請求者ヨリ之ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示スヘシ
死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬二名以上又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス可シ(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ(親屬)ノ下(又)ノ上(二名以上)ノ四字ヲ加フ)

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札達書及其代金完納ノ證書ヲ示ス可シ
本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本項追加)

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ達書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲タルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ
第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ(地券)鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登記濟ノ證ヲ受ク可シ(二十年七月十五日法律第一號ヲ以テ本條改正)

第三章 質入書入

民法附錄

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本項

正改)

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重子テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手數料

第二十五條 地所建物船舶質買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價

五圓未滿
拾圓以上
拾圓未滿

登記料

五錢
拾錢

拾圓以上未滿
拾圓未滿
五百圓以上未滿
五百圓未滿
百圓以上未滿
百圓未滿
五十圓以上未滿
五十圓未滿
十圓以上未滿
十圓未滿
五圓以上未滿
五圓未滿
以上五千圓マテ毎ニ貳圓ヲ增加ス

貳拾五錢
五拾錢
壹圓
貳圓
三圓
四圓
五圓
六圓
七圓
八圓
九圓
拾圓
拾貳圓

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定

メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人ハ第二十五條ニ掲クル

金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ(二十三年九月一日法律第
七十八號ヲ以テ本項追加)

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス

第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム(二十三年九月一日法律第
七十八號ヲ以テ本條改正)

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ抜謄ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷堤敷井溝敷及公衆ノ用ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低價ナルトキハ該費用ハ其登記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨリ五十錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脫シ及之ニ通謀シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾銀下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得

右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金壹錢ヲ納メシム(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ

通知ス可シ

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ(二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ本條改正)

○登記法中改正追加

朕登記法中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年九月一日

- 內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
- 內務大臣 伯爵西鄉從道
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣 伯爵松方正義

法律第七十八號

明治十九年法律第一號登記法中左ノ通改正追加ス(本條ノ改正追加ハ直ニ前記登記法中ニ就キ訂正セシヲ以テ茲ニ本文ヲ畧ス)

○登記法取扱規則

司法省令第七號 明治二十三年十月二十九日

民法附錄

本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルニ付明治十九年省令甲第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム
登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲スコシ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付スコシ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得

第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ商法第八百二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ賣買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ質入書入及ヒ商法第八百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

船舶登記簿ハ第一號書式ニ準シ地所建物ノ登記簿ハ從前ノ例ニ依ル可シ

第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲スコシ

第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺

シ且每葉ニ契印スコシ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ申告シ更ニ分合

セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現状ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記スコシ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出スコシ但商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ受クルモノハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ謄本若クハ拔書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出スコシ

代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付典シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ

第八條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第三號書式ニ準シ書類ノ受取證ヲ下付スコシ

第九條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別テ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分チ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サ、ル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手

續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現状ヲ記載ス可シ

數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入若クハ差押等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ登記事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其質入又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ヲ云フノ物件ト連帶シテ書入若クハ質入トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其書入若クハ質入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ朱抹ス可シ

第十七條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ相續ノ場
合ヲ除ク又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債
主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更
ノ欄内ニ登記スヘシ

質入書入ノ債主負債主ト協議ノ上質入書入トナシタル物件ヲ引取り所有者ト爲リタル場
合ニ於テハ乙區取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十八條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シ
タル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

商法第八百五十四條ノ裏書讓渡モ亦タ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財
産ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財産タル旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明確
ナラシメンカ爲メ登記出願ニ付何々ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權利移
付者ノ欄ヲ朱抹ス可シ

第二十一條 従前ノ公證簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴收セス
舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十一條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上
乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキ
ハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質
入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス

地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞燒失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登
記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス
可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收ス

登記法第四十一條ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ變換ノ通知ヲ受タルトキモ亦タ表題部ノ物
件ニ付テ訂正ヲ爲ス可シ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治二十三年勅令第二百十九號船籍規則第一條ニ依リ定
メタル船籍港ヲ管轄スル登記所ヲ以テ定繫場ノ登記所トス

第二十五條 商法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ
第十條ヲ適用ス

第二十六條 鑑札アル船舶ニ付始メテ登記ヲ請フモノハ其鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シ
タルモノハ此限リニ在ラス

商法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船籍證書其他商法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ス可シ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入質入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ朱抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ拔書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ

前項ノ拔書ニハ現存セル所有權、書入質、差押其他ノ負擔ヲ摘載シ且轉出ノ旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其拔書ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ前項ノ例ニ準シ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第二十條第一號第二號ノ規定ニ依リ變更及ヒ拔書ノ手数料ヲ徵收スルモノトス

第二十八條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出スヘシ
建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク

可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ
建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署ス可シ

地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編入スヘシ

第二十條 登記ノ爲メ差出シタル原證書ニハ登記簿ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ年月日ヲ附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ

前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記簿ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキハ物件ヲ記シタル書面ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記簿ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ

第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第二以下ノ續ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順序ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ
第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必
ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ

登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄ス可カラス若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印ス可シ
本條ノ規定ハ受付帳ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 帳簿及ヒ謄本拔書

第三十二條 登記簿及ヒ受付帳ノ外登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 登記見出帳
- 二 證書謄本綴込帳
- 三 謄本下付帳
- 四 登記濟證下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳 裁判所又ハ行政廳ノ登記
請求書ヲ綴込シタルモノ
- 七 登記願書綴込帳 登記簿ニ綴込シタルモノ
登記願書ノ綴込タルモノ
- 八 證明書綴込帳 登記簿ニ綴込シタルモノ
證明書ノ綴込タルモノ

九 名刺綴込帳

十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

商法ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出タル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條ニ從ヒ
之ヲ保存ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ十五噸以上及

ヒ百五十石以上ハ其船名ニ依リ其以下ノモノハ鑑札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付ス
ル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ
下ニ記載ス可シ

同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區
別ス可シ

番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物ニ
子丑寅卯ノ符合ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ

前三項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ヲ請フ爲メ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差出
シタル證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込シ各箇ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊號及
ヒ丁數ヲ記ス可シ其登記簿ニハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳第何號ト記入スヘシ

甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

乙部謄本綴込帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス

謄本綴込簿ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ

登記ニ關スル帳簿ハ之ヲ保存スル爲メノ外登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十八條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ但手數料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルコトヲ得ス

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ

拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第四十一條 登記所ニ出頭セスシテ謄本又ハ拔書ヲ請フ者アルトキハ手數料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ之ヲ送付ス可シ

第四節 登記料手數料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納ス可シ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラス

第二章 特許、意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許、意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準シ之ヲ爲スモノトス

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許、意匠及ヒ商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與、讓與、共有、書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自

身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作り之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附則

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シアル船舶ニ付商法第八百二十五條及ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條ニ規定シタル事項ヲ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ

○登記印紙規則ヲ制定ス

朕登記印紙規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十月八日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
大藏大臣 伯爵松方正義
司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第六十六號

登記印紙規則

第一條 明治十九年^八法律第一號登記法ニ定メタル登記料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納付スヘシ

第二條 登記印紙ハ登記法ノ定率ニ從ヒ登記ニ關スル請求ノ書面ニ貼用シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第三條 登記印紙ノ種類定價及其賣下ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 登記印紙ハ官廳ノ許可シタル賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌クコトヲ得ス若其賣捌所ノ外ニ於テ之ヲ賣捌キタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ登記印紙ヲ買取シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 前條ノ規則ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 本規則ハ明治二十一年十二月一日ヨリ施行ス

○登記印紙ノ種類定價ヲ定ム

(大藏省令第十三號 明治二十一年十月二十四日)

今般勅令第六十六號登記印紙規則第三條ニ依リ登記印紙ノ種類定價ヲ定ムルコト左ノ如シ但印紙ノ見本ハ別ニ之ヲ頒示ス

登記印紙ノ定價

印紙ノ種類

民法附錄

一 貳錢五厘

一 五錢

一 拾錢

一 五拾錢

一 壹圓

一 貳圓

一 五圓

(一) 壹錢

茶褐色

同

同

青色

同

同

同

茶褐色 (明治二十三年十月三日大藏省令
第二十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

日本六法全書上卷終



